

六稜会報

NO. 30 1996・9・15

平成 8 年 9 月 15 日 発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六 種 同 意 会
〒532 淀川区新北野2-6-18
電話 06(306)0374 代表
FAX 06(306)1335
振替 00990-4-68025
六稜同窓会名簿口座
振替 00910-7-309004
編集 岸田知子・能田俊一・寺井あかね
印刷 フジエフオート印刷
電話 0729(87)8254
FAX 0729(86)1165



笹部桜 (岡本南公園)

123周年総会ご案内

写真とスケッチ 63期 戸澤正雄

特集 同窓会館建設にむけて

六稜会館物語

六稜同窓会 123周年総会

開催のご案内

六稜同窓会総会は会員全員に参加資格があり、六稜同窓会の活動方針や予算がここで決められます。また、例年、各界で活躍しておられる会員による卓話があります。今回はNHKの朝の顔としてお馴染みの有働由美子さん（99期）にお願いしました。その後の懇親パーティーは、今年から新しい試みとして50歳を迎える期に幹事役をお願いすることになり、先ずは77期が担当します。例年ない企画があれこれ登場します。ぜひ友人お誘いあわせてご参加ください。

なお、出席の方は同封のはがきにて連絡の上、振替用紙にて参加費をお払込みくださいれば幸いです。

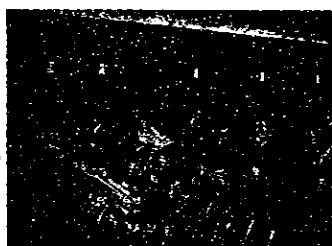
日時 10月27日（日） 0：30 pm 受付
1：00 pm 総会・卓話
3：00 pm 懇親パーティー

会場 北野高校

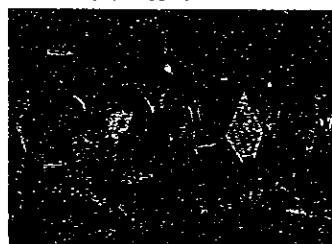
会費 5000円 ※但し卒業5年以内（H3年以降卒）と
52期（S14年卒）以前の方は無料

卓話 有働 由美子（99期）「ニュースを伝えるということ」

＜うどう・ゆみこ＞ 神戸女学院大学卒業後、1991年NHKにアナウンサーとして入局。
大阪放送局で報道リポーター、スポーツ中継などを担当。93年4月から
朝のNHKニュースおはよう日本を担当。現在同番組3年目。



昨年の総会より



昨年の懇親パーティー

今の校舎の記憶を、あなたのカメラで、あなたの絵筆で残してみませんか。
総会に先だって「消えてゆく北野の校舎を撮影・写生する会」を行います。
作品を総会当日ご持参いただき、展示します。

日時：10月6日（日）午前10時より午後4時まで

*道具類は各自持参のこと。

年会費についてのお知らせとお願い

六稜同窓会の運営は会員の年会費によって行なわれています。近年の諸経費の増大、金利の低下などにより財政的に苦しくなったため、昨年より年会費を3000円に値上げいたしましたが、多くの会員の皆様には趣旨をご理解いただき、納入にご協力くださいましてありがとうございました。会費納入率もわずかながら上昇しております。事務局としましても納入者が増加するよう、一層の努力をいたしますが、皆様におかれましても、さらにご協力くださいますようお願いいたします。

また、従来卒業後5年間は徴収しないことになっていましたが、今年からは新規卒業生からも会費をいただくことになりました。よろしくお願いいたします。年会費納入には同封の振替用紙をご利用ください。

儒教と現代 (1995年総会卓話抄録)

大阪大学文学部教授 加地伸行 (67期)

ふつう、儒教と首うと拒絶反応を示す方がいます。特に女性の方は自分たちを苦しめるものだと感じておられるようです。お話ししているうちにそうではないことがわかつていただけると思います。

現在、話題になっているものに夫婦別姓問題があります。おそらくまもなく別姓を認める形に改正されるでしょう。問題は、現在行なわれている議論に間違いがあることです。夫婦同姓というのは家制度から来ている、この家制度は新民法によって否定された、従ってその家の姓を称すると言うのは否定されなければならない、と言うのです。これは根底的に間違っています。本来、我が國も朝鮮半島も中国大陆も夫婦別姓です。儒教では夫婦は別姓です。江戸時代もそうなんですよ。明治になって庶民が姓を持つようになり、内務省は夫婦は別姓たるべしと何度も通達を出しています。

では、どうして夫婦同姓になったのか。旧民法ではその家の氏、即ち戸主の姓を名乗ることに定められましたが、これはキリスト教のファミリーネームから来ています。日本は、幕末にアメリカと日米修好通商条約を結び、その後列強と次々に条約を結びましたが、これは不平等条約でした。これの撤廃を要求した時、欧米はその条件として、日本に欧米なみの刑法や民法の制定を求めました。そこで、フランスの民法を手本にしたのが明治の民法です。フランスの民法の背後にあるのはカトリック的な考え方です。その一つに姓、ファミリーネームがあるわけで、夫婦は家の氏を称すべしとなつたのです。これは夫婦別姓という儒教の伝統の否定です。昭和23年の民法の改正では、夫または妻の姓とするにとどりました。私は日本でのこの問題の議論をずっと読んでいますが、夫婦同姓が不平等条約撤廃に始まるなんてこと、誰も言つていませんね。ここにおられる方には、夫婦別姓問題の背後には儒教とは別の問題があることをご理解いただきたい。

私たちのまわりには儒教的な問題がいくらでもあります。インドから仏教が伝わる際、南の方では仏教に対抗できる文化が無かったからそのまま浸透した。東南アジアでは今でも出家主義で、坊さんだけが教われるんです。中国へ入ってくると儒教文化があった。儒教は在家主義、家を棄ててはならない。仏教は布教のために妥協をして、儒教的考え方を取り入れた。それが日本にはいってきたのです。在家主義とは何か、儒教の本質とは何か、それは祖先を祀るということです。

仏教は輪廻転生ですから、死んだらどっかに生まれ変わる。家の人が亡くなった人をおがんだって帰っては来ない。ところが儒教はちがう。ここの天井のようなドームが天で、これと大地、その間にあるものしか借用しない。死んだ魂がどこへ行くかといつても、どこへも行か

ない。ふわふわと魂はあの世に行かずにこの世にいる。だから呼べば帰ってくるのです。これは理屈ではなく感覚なのです。仏壇の一番上段にご本尊がいらっしゃる。このご本尊に花をささげて、輪廻転生の苦しみから救つてくださいと御願いをする。次にお灯明を点けて、帰つてくる魂が道を迷わないようにする。ご先祖は線香の煙に乗つて降りてくる。そこで我々は「ご先祖様、おはようございます」というわけです。皆さん、御仏壇の前で、輪廻転生の苦しみから救つてくださいと御願いしたことがありますか。だいたい、ご先祖様お早ようございますをしているのが我々なんです。仏壇は、仏教の形をとっていますが、実は儒教なんです。仏壇の前に家族が集まることが家族を結びつける大きな力になっている。仏壇というのは日本人が作った最高傑作です。

キリスト教は一神教だから超越した絶対神をおきました。神に対する気持ちは「おそれ」です。おそれをもつた人間は自分に対して厳しくなる。自己規律がある。だから自立し、自己責任が生じる。だからその行動は自由なんです。それが個人主義といわれるものなんですね。個人主義が生まれる背景にはキリスト教の文化があったわけです。キリスト教無き個人主義、これはエゴイズムです。おそれがないんですから。なにしようと自由、勝手放題になりますね。明治の始め、大阪に藤沢南岳という漢学者がいました。この人は弟子に自由とは何かと尋ねた。弟子は正確な意味を答えた。南岳先生は、それは翻訳である、「道理」と訳せとおっしゃった。リバティをですよ。これはすごいことです。英語を全く知らないからこそ、本質が見抜けたのですね。自由の代わりに道理を使っていたら随分変わっていたでしょうね。

東北アジアでは人間のエゴイズムを抑えるものは家族なんです。これが家族主義というべきものです。今の日本は近代国家を作るために個人主義を導入して非常に混乱している状態です。東北アジアの儒教文化圏の家族主義は、祖先をまつることから始まって、その祖先をまつるのは子孫、だから子孫一族が増えていくようにと考える。私の言葉で言いますと生命の連続ということなんです。欧米人の家族觀は個人主義ですから、結婚する時も男と女が契約して家族を作るんです。だから契約違反が起こると離婚です。東北アジアでは家族は生命の連続の場と考えていますから、家族というものはつぶしてはならないものと考えている。ここが大きな違いです。

欧米では信仰を失う人が増加して、信仰を失った個人主義の悲劇が目の当たりに見えてきた。21世紀には個人主義対家族主義が激突するでしょう。今の日本で元の家族主義に戻せるか、これはむずかしい。どちらかを選択することで折合いをつけていくしかないと思う。その一番の問題は老人介護です。伝統的な家族主義の持つている良さを活かしていく方法はまだまだあるでしょう。21世紀を迎えて日本が何を選んでいくか。我々は幸い長い伝統的な儒教的な感覚を持っているから、それを足掛かりにして、何とかやけるのではないかと思っています。

特集 同窓会館建設にむけて

六稜会館物語—六稜会館から旧図書館、現図書館へ

まずQUESTIONです。

右の写真①と次頁の写真④を比べて見てください。それぞれ十三校舎の何という建物でしょう？（十三校舎はよう知らんとおっしゃる先輩方には申しわけありませんがどうか統けてお読みくださいますように！）

同じ建物じゃないかですかって？よくご覧ください。「なるほど違う、①は知っているけれど④はなんだろう」と思われる方と逆に「④は在校中毎日その前を通ったけど①は何かな」と思われる方がいらっしゃるはずです。

答えは①こそ、母校が十三の堂やたる新築校舎に移転した1931年に同窓会が記念に建設した六稜会館なのであり、④はその六稜会館が1945年6月の大坂大空襲によって焼け落ちた跡に1953年、創立70周年記念図書館として甦った姿なのです。

④の70周年記念図書館も6頁の写真⑥の創立80周年記念図書館に機能を引き継ぎ、現在は「旧図書館」と呼ばれているのですが、これら3つのいずれの建物にも、同窓会は深く関わってきたのです。来年度、校舎改築工事が始まるとき程からみて真っ先に取り壊されるという「旧図書館」に思いを馳せ、さらに失われた六稜会館の在りし日を求めて、校史資料を探ってみましょう。

六稜会館の完成（『北野百年史』P 1067より）

新校舎移転後、着々校庭の整備も進み、10月10日には校長宅の完成をみたが、更に11月5日には六稜会館が竣工した。

「母校の新築を記念するため予て我会が計画を立て居たる記念会館の建築設計図は母校の建築を担当せられたる府の技師の手に由りて1月に出来上り居り実行委員の一覧を乞い少々修正を加へ何時にも建築にかかり得る運びに至り居りたるも新校舎敷地内の地均工事が案外暇取り従つて会館の工事が遅れ…7月16日山之内工務所に請負金高一万二百五拾円にて請負はせることとなり設計仕様書及工事費内訳明細書を出した。学校内敷地使用は本会代表者として不二樹氏の名を以て府知事に借用方を願い出でありたるところ7月16日を以て府知事の許可書が出ました即ち体育馆北手約50坪であります。工事は雨天続きため7月28日起工し、11月5日工事が完成した。」（「六稜同窓会報」第9号）

1931(昭和6)年12月15日発行の同会報にはこの記事のあとに「母校新築記念六稜会館建築資金寄付者氏名」として11月1日現在計452名の氏名が挙がっている。

1931年は、4月1日に始まった十三新校舎での生活の中で、生徒職員一同は11月10日の校舎落成式に向けて期待と喜びをこめて準備を進めていたのであった。しかし思わぬ事件で10月下旬から11月上旬、北野は大搖れに揺れることになる。生徒数十人にチフスが発生し、その内8名が亡くなるのである。落成式は翌年4月に延期を余儀なくされた。また日本全体に目をやれば、9月18日に満州事変が勃発し、以後日本が戦争へと突き進んで行く年であった。



①

『目で見る北野80年史』には珍しい会館内部の写真②も一葉掲載され、次の説明がある。

「校舎新築とともに同窓会の手で建設された六稜同窓会館。階上は集会室・遊戯室などから成り疊敷。階下は生徒食堂に使われた。」



② 六稜会館2階

六稜会館がその後どのように使用されたかについては資料として残っているものが少ないので、ご記憶のある方には是非同窓会宛てに情報を寄せいただきたいものであるが、『北野百年史』の記事を拾っていくと、階上階下とも、学校の要請に応じて様々に変遷を遂げながら利用されていったようである。

たとえば1935(昭和10)年から設置された工作科に対して「当時府下中学校長会の度重なる要請にもかかわらず、工作室建設費が府の予算では計上されず、やむをえず本校では同窓会館の一部を借用して工作室にあて」、翌11年5月工作室が特設されるまで使った。また生徒食堂の方は、皇紀二千六百年記念事業の鍔道場の新設・運動場の修理拡張に加えて、生徒保護者会の「栄養方面より生徒の保健向上を図り度」い意向が実現し、1940(昭

和15)年2月11日に六稜会館の奥手、既に前年のうちに新築された剣道場の北側に、厨房を備えて建設された別棟に移って行った。同じ昭和15年の校舎諸施設配置図に見ると、六稜会館は「生徒図書館(卒業生記念館)」と記されている。(『北野百年史』p 1158, 1218, 1226)

六稜会館がいつから生徒図書室に利用されたかはっきりしないが、昭和15年卒、53期の中江要介さんは『六稜百年—その嬉しい出』の中で編集委員の問い合わせに答えて「楽しかったことは、片思いのS高女生が阪急梅田のフォームを通るであろう時間まで、独りで、母校の図書館で受験勉強をしていた頃のことなど…。」と書いておられる。また1993年6月に図書館が同窓会理事会に合わせて図書館の変遷を知るためのアンケートをお願いしたところ、第2次大戦中の六稜会館についていくらか判明したことがある。2階が図書室であったのは、共通の認識であったが、より詳しい回答を頂いた60期の大岩重雄さん・柿木昭彦さん、お話を聞くことができた61期の坂本彬さんによると階下は図芸部やラクビー部等の部室で2階が図書室であった、グラウンド側の階段を上がって手前が自習室で西の奥の壁に作った書棚に千冊ほど生徒用の本があり、その書庫と自習室とは斜め格子の金網で仕切られておりのようであったとのことだ。階下はクラブの部室が廃止となってからは倉庫として使われ、20年に大空襲で焼けた折は直径1メートルほどに巻いた上質紙が入っていたと言う。



③軍事教練

查閲風景

六稜会館の消失

日中戦争から太平洋戦争へと戦争が激化する中で、六稜会館の前では軍事教練の査閲が繰り広げられ、校庭に防空壕が掘られ芋焼やかぼちや焼が作られるまでになって、遂に1945(昭和20)年6月7日大阪第3回大空襲で六稜会館は全焼する。当日の様子を『北野百年史』は次のように書いている。(p 1320)「ついに淀川右岸・十三一帯も焼夷弾の襲撃をうけ、本校周辺の住宅街も、本校に隣接せる成小路国民学校の校舎もたちまち灰燼と帰した。本校では六稜会館、工作室、剣道場、食堂が全焼し、体育馆も柔道場の半分が焼け落ちたが、本館への類焼をまぬがれることが出来た。」六稜会館は鉄骨の外観だけを残して瓦礫の山となり、3日ほど燃り続けたそうだ。6月12日の学校日誌に「始業時刻、朝礼11時、星食後12時より授業。焼跡の整理、焼残りの紙を生徒に頒布、ノートをつくらせる。」(p 1322)とある。学校防衛中の

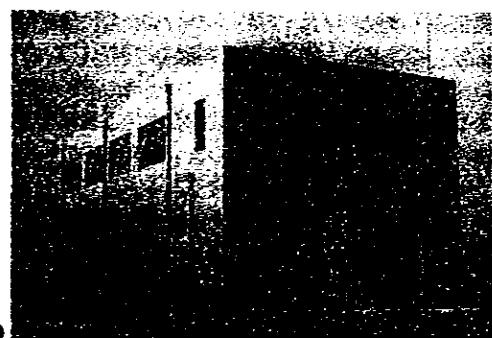
2名の2年生が戦死したのはこの後6月15日の第4回大空襲によってであった。

北野120年の歴史の中でも最も大きな事件のひとつである「チフス事件」のさ中に誕生し、もうひとつの大きな事件「生徒の殉難」とともに姿を消すまで、六稜会館が就めたのは、「15年戦争」の中の北野であった。

同窓会 戦後の2つの図書館建設に大きな協力

戦後、新制高等学校として北野も新たな出発をするが、昭和23年11月に着任した林武雄校長は13年4ヵ月に亘る在任期間にその後の北野高校の発展のさまざまな基礎を築かれた。戦後の荒廃の殘る中で、林校長は図書館建設に熱意を抱かれた。創立120周年誌の編集委員が当時のお話を伺うため、図書館の係の中心であられた零石鉱吉先生をお訪ねしたところ次のようなお話を聞きした。

「林校長は史学者としても有名な方だった。そのせいであろうか、特に図書館に力を入れられた。一面、古武士の風格を備えた先生は、PTAや同窓会にもファンが多くいた。大和銀行の寺尾さん、池田銀行の清瀧さん、住友化学の土井さん、京阪副社長の今田さんなどにも力を借りて、昭和25年から毎年図書館のために積み立てをしていった。戦後間もなくのことと、紙不足もあって出版界は全く通塞していた。古本に頼るしかなかったが、それも高価で手が出ない。図書購入に府費はほんのわずか、PTAの寄附に頼らざるを得ない。24年から普通教室2つを図書館にして、生徒図書部員がいて、最初のカードつくりから活動してくれた。昭和28年の創立70周年(現在の周年的教え方では80周年にあたる)に向けて校長から図書館を作ろうと言う話が出た。建物はどうするか。六稜会館の鉄筋を利用して改装しようということになった。改修の費用は400万円、鉄筋から始めると800万円と言われているが、鴻池さんが随分寄附もしてくれ力を貸してくれたと思う。焼けた高校で別棟に図書館があるというのは、他には無かった。北野が別棟の図書館を作ることでえらいいうらやましがられた。新しく出来たというのでよう見学に来つた。大阪の連中はもちろんのこと、館長会議なども北野で開いた。地方の連中も見学に来るし、注目されたね。とにかくトップ級で校長が予算面で非常にきばって出してくれた。」



70周年記念図書館の完成

——1953（昭和28）年11月

設計には40期の高橋慶夫氏が無償奉仕あたり、建築には前同窓会長鴻池藤一氏（43期）の鴻池組の犠牲的奉仕があった。1階は貸し出しカウンターとカード室、司書室、図書部室、奥に書庫があり、2階は手前に新聞閲覧室、グラウンドの騒音遮断用のガラス戸の奥が読書室であった。「ライブラリーニュース」記念特集号で、林校長は「高等学校図書館としては第1級」のものになった事を慶び、今後のよき活用によって尽力くださった方々の期待に応えるよう求めていた。生徒の側では、待望の図書館の完成は、「もとよりPTAその他の一方ならぬ御尽力ありとはいへ、実に70年の伝統に栄える諸先輩の非常な御尽力の賜物と心から感謝に堪えません。」と「先輩諸氏に贈る感謝の言葉」で述べ、学校全体の努力で先輩の期待と後援にこたえるべく精励する覚悟を記している。70周年の記念文化祭で「先輩著述展」が開かれ、優れた諸先輩から新たに自著の寄贈があった。（「ライブラリーニュース」については『北野百年史』p1493）

図書館が各時代の建造物の一つとして価値があるのではなく、その蔵書の中身にこそ大きな存在価値があることを思う時、北野の伝統が息づく場所として大切に考えられて当然である。

同窓会は創立80周年にも記念事業として「母校に図書館を寄贈」を決定する。

「創立80周年」記念図書館落成式

（現図書館の誕生）

「1968年3月 同窓会が【創立80周年】記念事業として取り組んできた新図書館が竣工した。総工費は、同窓会が1963年から6年に亘って募った932万円に、1967年度の府費とPTAの寄付金も合わせて、2500万円であった。鉄筋コンクリート2階建、総面積628.34m²、1階にカード室・閲覧室・書庫・職員室、2階に自習室・小会議室を備え、建物本体及び内部施設にも十分研究がなされて建てられた、当時としては大変斬新な図書館であった。

前庭の整備などを終えて、7月7日、落成式が講堂で、また祝賀の小宴が南庭で開かれた。式典には、府教委その他の方々の来賓、本校教職員・PTAの出席約70名に加えて、「徳部様」の徳部新太郎（17回）、同窓会理事として50周年・60周年・70周年・80周年（すべて当時の周年の数え方による）に参与し100周年に同窓会功労者表彰を受けた石津作次郎（18回）、「難波の宮」研究の山根義太郎（23回）ほかの明治30年代・40年代の卒業生を含む230名近い同窓生が列席した。「六稜会館」を改修・増築した「創立70周年」記念図書館の場合と同様に、六稜同窓会の母校図書館への並々ならぬ援助に対して、職員一同、深い感謝の念を捧げた。特に、先の70周年記念図書館建

設時に統いて、設計・施工に関して格別の尽力をした高橋慶夫（40回、大阪建築事務所社長）・鴻池藤一（43回、鴻池組社長）に、式典で知事より感謝状が贈呈された。」（『北野百二十年』p197より）



⑤ 創立80周年記念図書館

建築後 四半世紀を経て

新図書館が開館して既に28年が過ぎた。選定会議を経て一冊ずつ購入された書物はスペース不足の書庫を圧迫し続けながら増え、本年3月には65,614冊になっている。旧館には未整理の明治以来の教員図書がこの他に約1万冊ある。現在の状況を知るために「北野図書館報」第34号（1993年7月8日発行）の「本校図書館の昨日、今日、そして明日は？」から一部を引用しよう。

「——本校の蔵書の特徴は

明治初期に開校した本校にのみ残る資料があること。
明治の中等教育に用いられた教科書ほか洋書を含む明治年間に購入の書物が旧館を中心に保管されていること。
優れた卒業生の著作をできる限り集めている（六稜文庫）。

大阪関係の本の収集。

また本校図書館へは寄贈も多い。70周年先輩著述展に統いて、創立百周年にも同窓の各方面から寄贈を頂き、六稜文庫が充実した。・・・

——歴史的蓄積を生かして

このような先達による蓄積があったからこそこれまでの校史編纂また周年の記念展示が可能となったのである。

——校舎改革を前に、将来の図書館に望むこと

質量とともに府下公立高校随一を誇ってよい図書館の課題は多く、かつ重い。思いつくまま、その二、三を挙げてみる。

1. 近代日本中学教育史上貴重な明治期の学事年報、校長会議録などの原資料を保管閲覧できる資料施設の整備。
2. 佐伯佑三（30期）の「ノートルダム（マント・ラ・ジョリ）」は別格としても、林重義（28期）、吉原治良（36期）をはじめとする六稜芸術家から受贈の貴重な作品に、後輩が容易に接し得る施設の整備。
3. 広範な領域にわたる当館蔵書を生徒教職員が積極的に活用できるようにするだけでなく、府民にも開放する先駆的学校図書館への道を検討すること。・・・

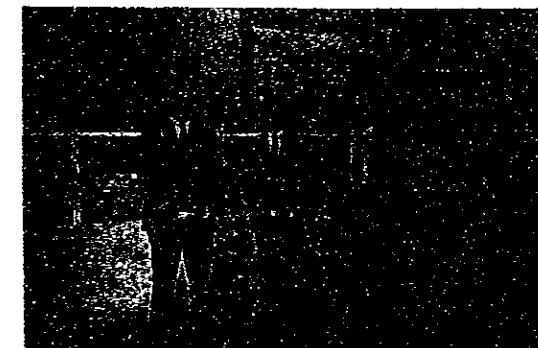
北野の伝統は有形無形のものとして今日に繋がっていると思われるが、この図書館の現状と課題とするものに、まさしく北野の文化がここでも守られてきたことが見えないだろうか。六稜会館を前身とする旧図書館以来、北野の図書館はやはり「卒業生記念館」の役割も果たしてきてくれたと言つてよいのではないだろうか。

校史資料の収集や保管は主に図書館の係で行われているが、常設展示は施設がないためもちろん不可能で同窓生在校生とも閲覧できるのは周年の記念展示の時ぐらいである。北野が持つ史料、資料、芸術作品などの紹介に代えて、これまでの主な記念展示を振り返ってみよう。

図書館2階自習室を利用して 開かれた周年の記念展示

北野百年展

北野百年の歴史を物語る史料展が1973年10月6日から11日まで図書館で開かれた。以後5年毎の周年展示の範となるものであった。



北野百年展。左は手塚治虫（59回）、右は藤井通雄校長（44回）

創立110周年記念展示

卒業生の著作、学校所蔵の佐伯祐三・林重義・吉原治良・手塚治虫はじめとする卒業生の作品、新たに出品を受けた和田守幸良（74回、陶芸家）・見市泰男（81回、

能面作家）などの作品、さらには特別展示として村田校長みずから上京し借り受けた野間宏（45回、作家）の自筆原稿（『暗い絵』・岩波講座『文学』など）が、そして佐伯祐三の未発表作品・書簡などが本校図書館2階を会場として、11月1~4日の4日間展示された。なお、新たに展出された作品の多くは制作者の厚意により展示後学校に寄贈され、現在本校のかけがえのない財産として、保管されている。（「北野百二十年」p240より）

北野120年展——史料と作品——

創立120周年には、絵画・写真・建築・書道における同窓会員の作品が、1993年9月30日から10月4日までナビオ美術館で催された「六稜会展」に出品された。

一方、北野の120年の歴史を文化史として辿ろうとする記念展示「北野120年展—史料と作品—」は図書館2階で11月2日から4日まで開かれた。当日用意された冊子（20頁）から一部の題目のみ記すと、普段はなかなか見ることのできない貴重な校内史料の特別展示――浜田耕作（12回に相当）放校処分前後の事実報告（原文コピー）／野間宏（45回）「同人雑誌『三人』の頃」（原文コピー）／佐伯祐三（30回）の書簡類（写真）／性行録 大正2年度 佐伯祐三と阪本勝の部分／校歌 原譜と関連資料――に加えて、校内保管の重要書類――本校学事年報（大阪府第一尋常中学校）／府下尋常中学校長会議録 第一冊（明治29年起）／大阪府中学校長会議録 第二冊（昭和3年10月以降）――その他「六稜同窓会報」「六稜」「創立50周年」等記念誌、「北野百年史」、クラブ部誌に卒業生・旧職員の著作、昭和24年春の全国選抜高校野球大会 優勝旗などが出品された。

この他にも、図書館2階で105周年、115周年記念小展示も開かれた。

* * * * *

六稜会館物語 いかがでしたか。かつて、同窓会員の寄付によって建てられた「六稜会館」があったこと。それが先輩が母校を思い、後輩を思う熱意によって、旧図書館へさらに現図書館へと形を変えて残っていることを、若い同窓生の方々に少しでも知っていただければ幸いです。

現在、同窓会では、新校舎竣工の2001（平成13）年に合わせて同窓会館（兼資料館）を建設するべく、あらゆる方面からの検討を始めています。会員相互の交流・親睦がはかれる会館であるとともに、北野の所蔵する芸術学術的資産、多くの歴史的教育資料を保管・展示できる資料館、北野文化の発信基地となれる施設を兼ねる形が考えられています。同窓会会員の総力を挙げての取り組みが必要となります。その取組み方にについては 次号で提案させていただきます。同窓会長年の夢であった同窓会館建設に向けて 今後 ご協力を何とぞよろしく。

想い出の風景 わが校舎わがグランド（1）

十三校舎新築のころ 45期 森島 重勝

45期生は、十三校舎の最初の五年生、つまりは現校舎の第一回の卒業生である。その校舎も早60余年を経て、建て替えとは…。私ども45期生の手で、第一の爆破のスイッチを押してみたい気もする。

昭和6年(1932)3月末、全校生徒は手に手に博物標本、地図など小物類をさげ、大八車に机椅子を積み、長い行列を連ねガタガタ揺れるボロ十三橋を渡り、たもとの「十三やきもち」をほおばり、引越しを手伝う。

芝田の校舎は明治39年(1902)建設のしろものだけに、床板も腰板も維ぎはぎだらけだった。そんな校舎で4年間暮らした私どもには、十三の新校舎は見るものすべてが新品、しかもその華麗さに目をみはるばかり。

第一に胆をぬかれたのが講堂だった。正面の壇上の立派なこと。上を見ればシャンデリア。それに広いこと。「これなら全校生徒みな入るでえ」と感嘆。その筈、4年間の芝田校舎では全校生が一堂に会しての式があつた記憶がないのだ。校舎の外壁がクリーム色のタイル張り、全校内にスチーム暖房がついているときだ。3階教室は明るく、外に目をやれば淀川の堤防、対岸には梅田のビル、阪急電車の鉄橋が見え、日当たりがよく暖房もきいていて、のせている弁当のお菜のほのかな香りに、こっくり組が頻発する。

同級生塩浜文雄君がうたう。「北大阪線からは、剣道場の破れガラスがよくみえた。一日雨が降れば、二、三日朝礼なしの運動場。式は二部に分かれての講堂、しまいには講堂の中に教室もできた。狭くて、夏は汗臭く、冬は寒風入り。唯一のストーブに全先生が集まる職員室。今度はうちの学校、鉄筋だぞ。クリーム色のビルディング。ボロからのがれた我々に『きたの！　きたの！』と淀川が迎えてくれた。うれしいな。」

11月に落成式がある。校友会誌「六稜」第74号はその記念誌としての投稿大募集と発表された。我こそはと大勢の少年文士が名乗りをあげた。しかし、この落成式は、校内チブス事件のため延期となり、我々が去ったあとで4月に挙行された。

記念式の歌の歌詞は5年生塩浜文雄君が当選、佳作に同じ仲間の5年生、後の大文士　野間宏君のが入る。野間君の作品を紹介しよう。

水にときわのしるき 淀川べりにそり立つ
若きほこりの殿堂は 今こそ成れり 今ぞ成る
山にみどりの影仰ぐ 学びの園は風光り
百花匂う常春ぞ 祝へ祝はん今日の日を

また彼は「野間令一郎」のペンネームで、「落成式俳句で祝ふ」と二十数句を発表している。その内の五句を記す。

落成式 黄金造りの 大刀はかん
鳳凰の 飛ひ来るらん 落成式
あらたふと 北野を包む 紫雲かな
祝ひせん おくりものせん 雁の涙を
落成や 身は幽遠の楽土かな

柔道部試胆会の思い出 72期 新原知廣

昭和32年、当柔道部は春、夏ともに1週間の合宿を校内でやっていたが、夏合宿最後の夜に1年生の肝を試すことを恒例としていた。入学して3ヶ月余りでは広大な北野には未だ不案内で、月明かりだけの校舎校庭を歩くだけでも結構怖ろしい。加えて先輩達が、なぜかウイスキーなどを持参して泊まり込んでは、北野にまつわるおそろしいお話をするとあることないことを。

実は小生、平成6年4月より六稟同窓会の事務局長職を拝命し、ために北野の資料に接する機会もでき、いまさらこの校舎にまつわる事件の多さに驚いている。

昭和6年現校舎落成の年、10月に原因不明の腸チフスが生徒間に発生、発病者45名中8名が死亡するという大惨事に見舞われた。学校が祈祷師に依頼しお祈りしたところ、宿直室の地下に地蔵の首が埋もれているとのこと、早速掘ったところ不動明王の首が出てきたりして、改めて地蔵祭をとりおこなったとか。もちろん犠牲となった生徒の慰靈祭もおこなわれた。

昭和22年の大空襲では校内で校舎防衛中の生徒2名が直撃をうけて死亡、また動員先の工場で2名が死亡するという悲劇があった。

昭和26年に起きた定時制女生徒殺害事件はあまりに悲惨であった。9月10日の昼休み、清掃用具を取り出そうとした女生徒が敷壇の下で仰向けになっている死体を発見、一週間後に犯人が他校の野球部員であった事が分かり、学内のものでなかったものの、ショックは尾を引いたという。

私は昭和32年の夏、肝を試された。まずは暗い廊下を抜けて301号教室へ。手を合わせて、清掃道具入れの蓋の裏にサインをし、つぎに屋上に抜ける階段を上がる。死の直前に引き開けたであろう鉄扉に一礼しサインをする。グラウンドに出て、校長官舎の裏手から玄関へ、墓場跡と伝えられている音楽室裏を通り、弾痕の残る西壁の下を通って校舎に戻り、生物準備室、玄関、講堂前から宿舎にしていた307号室に帰る。途中予想していた先輩の悪戯も受けず、憂鬱な気分のまま床についたと記憶している。40年経った今、校舎は当時のままそっくり残されている。十三花火大会は校舎の真南の河川敷でおこなわれる。今年も校舎の頭上に鎮魂の花火を降らせて貰うことだろう。

「北野」を振り返って



松浦 育代

昭和15年生れ、清水谷高校、東京教育大学(現筑波大学)卒。昭和38年港高校、昭和40年北野高校、平成8年4月高瀬北高校へ転勤。

この春、高瀬北高校へ転勤になり、昭和40年から31年間在職させていただいた北野を去ることになりました。停年まで勤めれば、38年間になる教師生活のほとんどを北野で過させていただいたので、私なりの感想や想い出を、いくつか述べさせていただきたいと思います。

北野へ赴任してきました時は24歳（もちろん独身）で、大前先生の後任として体育科（平石、稲葉、野々村、須原、田中秀先生）ただ一人の女性教員でした。

私の母校清水谷も、始めて勤めた港も昔の女学校で、校舎の窓はアーチを描き、におやかな風情でした（もちろん両校とも校舎改築後は昔の面影はありません）。北野の校舎の角ばった堂々たる男性的イメージへの第一印象は、「こんな殺風景な学校で教えなければならないのか」と涙が出そうになつたことです。しかし、その後の30年の間に、広い落ちついた教室、生徒の動きや顔がよく見える高い教壇、重圧な講堂、理知的な玄関ホール等やはり北野は「学ぶところ」「教育現場としてふさわしいところ」を強烈にアピールしている学校であるという確信と愛着を持つようになりました。

元府立一中ということで、学校の中は圧倒的に男性が多く、生徒は1クラス50人中、女子は15名程度が平均的でしたし、教員の方も、女子教員は昭和50年までの10年間は、高田、栗岡、阿部、西川先生と私の5人でした。先生方の平均年令も高く、個性的な、独特のこわさ、近よりがたい印象の先生方ばかりのように思えましたが、懐にとびこんで相談すれば、親身になって、あらゆる角度から見た方針や方向づけ、私の取るべき態度など、素晴らしい解答や考え方を教えていただきました。

これらの御指導は、その後の私の教師としての大きな財産になっています。この時代の教員間は、若い先生はのびのびやれ、行き詰まつたりミスをした時もいつでも相談にのるよといつた大らかな雰囲気であったように思います。諸先生方からいただいた御指導に、感謝の気持で一杯です。

もう一つの印象は、行事にしろ何にしろ「男尊女卑」「男子優先」が徹底していることでした。竹筋コンクリート製にしろ古い50mプールがあったのですが、水泳大会（その頃は短水路）では、リレー種目でも、個人種目

でも、何でも男子の競技が先に行われていました。これはおかしいと思いました。女子が男子に劣っているとは思いませんが、走る・飛ぶ・投げる・泳ぐなどの基本的運動能力の差は、生物学的な差であって、近年、その差は縮まりつつありますが、この筋力等の男女差は、いかんともしがたい面があつて、同じ種目を男子の後に女子が泳げば、間が抜けるというか、見劣りするのはあたり前です。当時の体育科主任は「ピンタ」のニックネームで知られている明治生れの平石先生でしたが、先生に「メインの試合を先にやつてしまつたら、誰も前座試合を観ません。水泳大会を盛り上げるためにも、女子を先に泳がせて下さい」と申し上げたのですが、「女子は集合が遅い。水泳大会の進行が遅れる」とはねつけられました。悔しかったですが、女子が男子に劣らず、いえ男子を上回る行動の機敏さを身につければ、女子を先にして下さるにちがいないと考え、それからの授業では、集合（体育始業時、授業中に集合がかかれればかけ足で集まる等）を特に厳しく言うようになりました。始業の鐘が鳴ったのに全員並んでいないと言つては、制服に着替え直して集まり、次は3分間で体操服に着替えさせられた経験のある人は大勢いるはずです。女子の協力も実り、野々村先生を始め体育科の先生方の強力なアピールもあって、昭和50年前後に、やっと平石先生から「今年は女子を先に泳がせてみよう。あまり進行が遅れると元に戻す」といわれ、ずいぶん気を様ましたが、終つてみれば、例年と大差なく、その後の水泳大会は、今の形に定着しました。女生徒は、授業が厳しくて、つらい思いをした人が大勢いたことと思いますが、黙々と努力することによって、出来なかつたことがいつの間にか出来るようになった「成せば成る」という喜びや自信が、卒業してから得られた人も数多くあったのではないかと思っています。北野は、この日々努力する、努力を積み重ねて将来のための実力を地道に築きあげていくというタイプの生徒が多かつたからこそ、北野を高めてきたと思います。

努力といえば、女子の縄とびがあります。これは、当時の体育の授業が、週男子4時間、女子2時間だったことで、高校を卒業すれば、体育というものにほとんど縁がなくなる女子にとって2時間ではあまりにも少なすぎる、この少ない2時間で体力のつくものをとり入れたいと考えて始めました。準備運動として、心肺機能を高めるし、脚力、バランス感覚、リズム感なども同時に養える縄とびは、一石二鳥の運動だと思いました。始めた頃は、一回旋一跳躍と前回しの二重跳びだけだったのですが、バスケットボール部の女生徒がある放課後に、「先生こんな跳び方できる？」と後ろ回りの二重跳をとんでみせてくれました。さっそく挑戦してみましたが、すぐには跳きません。それから3~4日秘密に練習してどうにか連続10~20回は跳べるようになりました。馬力だ

けはあったけれど、技術取得に時間がかかる（つまり器用でない、どんくさい）私が、練習すれば跳べるようになった。これは生徒も必ず跳べるようになると確信して、その後の授業にとり入れました。

恨みの縄跳び、跳べるまで追試をする鬼の松浦とかいろいろ書われましたが、女子の体力や根性をつけるためと粘り続けました。特に恨まれたのは、女子だけに縄跳びが課せられたからだろうと思います。今でこそ、男女共に縄跳びをしていますが、始めてから15年間位は、女子だけで、おまけにテストまであったので、勉強、特に大学入試を真剣に考へている生徒からは、ずいぶんと非難されました。いくら女子生徒の体力作りのためという大義名分があっても、「何で女子だけ?」「跳べない者のつらさが分ってない」などの恨みのまなざしに耐えられるほど強い私ではなくて、5年に1度は「やめてしまえば、この恨みの重圧からのがれられる」と弱気になりましたが、野々村先生はじめ体操の先生方から、「女子が縄跳びに挑戦してがんばっている姿は素晴らしい、頭が下がる想いだ。がんばって続けなさい」と励まされたり、又恨んでいるはずの追試常連の生徒が、卒業してからたずねてきて、「縄跳びを跳ばされている時は、恨めしく思ったけれど、3年間で跳べるようになった自分が信じられない気持ち、跳べた自分をいとおしく思う、自分に自信ができた。先生、続けて下さい」といってくれたりした事が、ぐらつきながら、縄跳びをひっぱってきた私への励ましとなって、北野の縄跳びとして定着するようになりました。時々弱気の虫が出る私を、どうにか続けてくれた多くの先生方や卒業生の皆さんに「励ましがりがとう」と大きな声で申し上げたい気持で一杯です。

最後に、北野生についてまとめとしたいと思います。担任の時以外は、女子生徒ばかり教えてきましたが、始めにものべたように、昭和40年代は、少ない女子、行動の遅い女子と共に男性優位の立場に置かれていた女子に、女子は劣っていない、男子を上回る美点がある、男尊女卑の風潮を、打ちやぶる女子を育てていこうというのが私の気概でした。この頃の生徒は、寡黙で、回りの情況をよく把握して、適切な行動がとれる「大人」が多かつたように思います。女生徒も、世間の目から見れば、野暮ったくみえるほど、よく勉強していましたし、一見、愛想悪いようなよそよそしい態度でいながら、ちゃんと自分なりに先生や友達を把握しているなあと感じた出来事があります。それは、妊娠6ヶ月頃の走高跳の授業（もちろんその頃は砂場で）で、ベリーロールのフォームの説明をした後、1クラスに2回だけしか跳んでみせられないから、よく見ておくようにと言つて跳ぼうとした時に、「先生が口で言つて下さったら、私は一生懸命その通りやります。先生は座つて指示して下さい」といつ椅子をもってきてくださいました。妊娠中の跳躍は身体によくないという大人の配慮ができる生徒達だったとい

までも思い出すたびに、ホロッとしてしまいます。とにかく、長期見学の余儀ない病氣の生徒、身体に障害をもち、体育に参加できない生徒も、それぞれの立場で、自分の出来ることは参加しよう、やってみようという気構えをもつていて、若い先生であった私に、多くの感動を与えてくれました。またこの感動は、私に体育とは何だろう、実技を行うことだけが体育なのか、よき体育教師たるにはどうすればよいのかなど、自分を問いつめるものもあり、能力の最大限を引き出せる授業をと、私を発奮させてくれるものがありました。

北野は、生徒に最高のものを与え、教えるというところだけではなくて、生徒にも数多く教えられるところであると思います。感動をうければ、人間はやる気が湧きてくるものです。その感動を数多く与えてくれた、北野と生徒の皆さん、31年間、本当にありがとうございました。



<北野高校国際交流基金への寄付のお願い>

北野高校国際交流基金が、120周年募金の成果の内から1000万円をもって設立された事は前号でお知らせした。昨今の低金利下、利息だけでは足りないので、六稜同窓会基金の果実からも援助をしている。基金の額を増やすことが今後の課題である。趣旨をお汲み取りの上、ご協力をお願いしたい。

住友銀行十三支店 普通預金口座 1141617

口座名義 「北野高等学校国際交流基金」

大阪府立北野高等学校校長 山崎浩和

(寄付) 1996.7.31 現在 受付順、敬称略。

72期同窓生同期会 4万円

長尾多一郎 (70期) 30万円

ご厚志ありがとうございました。

六稜外史 フラグメンテ（『北野図書館報』40号より）

それからの厨川白村

—白村、漱石、ヘルンの奇しき縁—

英文学者、文芸評論家として明治、大正期に名を馳せた厨川白村（本名辰夫）は、明治二十六年に北野中学に入学、在学中から校友会誌『六稜』に作品を発表し続けた（『北野百年史』に詳説）。明治三十年、京都府立一中に転校、三高から東京帝国大学英文科に入学した。

当時、英文科では、小泉八雲（ラフカディオ・ヘルン）が講師として教鞭をとり、学生の人気を集めていた。

「みな能く聽者の胸底に詩の靈験を伝ふるに足るものがあった」、「これほど立派な講義を為られた先生、学生の尊崇敬慕を一身に集めて居られた先生、此の人あるがために當時私たちの母校が世界に知られる程の此先生」（「小泉先生」）というのが白村のヘルンに対する評価である。明治三十六年一月十五日、ヘルンは大学から、三月限りで解雇する旨の通知を受け取った。大学の方針が、外国人教師にかえて日本人の講師、助教授を置くことに変更される煽りを食らったのである。（ヘルンの月俸は二百円で日本人の二倍ほどであった。）

その後任の教師こそが、同年一月二十三日にロンドンより帰国したばかりの夏目金之助（号漱石）その人であった。二月末ヘルン辞職の報を知った学生たちは、三月二日、ヘルンの英文学史の講義の後教室に残って留任運動を始めた。小山内薫、川田順（一年生）らが急先鋒となり、総退学覚悟で運動に取り組む決意を表明した。当時二年生であった白村は、これに反対の態度をとったために、学友から嫌われることになり、学生の間にしごりを残すことになった。運動は結局奏効せず、ヘルンは憤りのうちに東大を去っていった。

このようなトラブルのあとをうけて四月二十日から教壇に立った漱石に対して、学生の対応は冷淡であった。世界的名声を得たヘルンに比べて、新参の夏目某はたかが五高教授あがりの一介の教師に過ぎないのではないか、というのが学生たちの言い分であった。また、ヘルンの文学的香氣の漂う講義に比べて、漱石の講義は、語学的に徹底して学生を絞り上げるというものであり、英語力の欠如を思い知られ高慢の鼻を折られた学生たちは、屈辱の余り、漱石への反感を募らせたのである。

ついに小山内薫、川田順は教室に出て来なくなつた。漱石もまた「自分は第二の小泉にはなれそうもない」と苦悩したのであった。

上田敏とともにヘルンの秀才学生であった白村が、なぜおおかたの英文科学生と行動を共にしなかつたか。おそらく白村には、夏目講師の圧倒的に恐るべき英語力、

英文学の造詣の深さが分かり過ぎるほど分かっていたのではないか。ヘルン先生も偉い、しかし夏目講師も端倪すべからざる逸材である、と。漱石も、白村にはなにくれとなく気を配つてやつたようである。明治三十七年七月の成績会議で、漱石は白村を優等生に推薦している。また、大学院では、漱石のもとで、「詩文に現れた恋愛の研究」という論文を書いた。後に、白村が、漱石の『虞美人草』の「小野さん」のモデルの噂が立った時、漱石は「定めし御迷惑の事と存候。」（明治四十年一月二日付書簡）と書き送った。また、白村の文章の掲載を出版社に斡旋したり、『それから』を読んだ白村に感謝の返事（明治四十三年一月十四日付書簡）を送ったりしている（『漱石全集』所載の書簡は五通）。「君子の交わりは淡きこと水の如し」といった趣の両者であったようである。

白村の最後は痛ましい。大正十二年九月一日鎌倉で関東大震災の大津波にさらわれて、二日に亡くなつた。時に、上田敏の後を繼いで、京都帝国大学教授であった。

（国語科 野尻和正）

厨川白村と『六稜』

「白村の文芸的活動は明治31年京都府立一中の5年生のとき『学友会誌』に『E. A. Poe』をかゝったのが最初である」と日本近代文学館編『日本近代文学大事典』はのべるが、彼は本校3年生のとき『六稜』第1号（明29.2）に「トマスケーメル訳詩 厨川辰夫訳 征夫の夢」の訳詩と短歌1首を寄せている。（『北野百年史』p. 387～388に再録）その後も白村は『六稜』寄稿者の常連で、第3号（明29.12）には「病床漫筆」（一連の隨想で「日本文学の中心と畿内文学」「大坂付近の文学者の墓碑」「青年の活気と熱情」などからなる）と短歌2首、第4号（明30.5）に「青年と熱心」と短歌1首などをのせ、京都に移つて以後も第6号（明30.10）には「『六稜』第五号を読む」と題する長文の批評、第8号（明31.5）に「京都だより」を寄せている。これらの文は後年の、『近代文学十講』『象牙の塔を出て』『近代の恋愛觀』さらに『十字街頭を往く』『苦悶の象徴』などにみられる、洛陽の紙價を高からしめた自由主義的で些か情緒的、個人主義的ながら社会の動向に敏感な文明批評的、そして多分に啓蒙的な彼の特徴をもちろん未だしめしてはいないが、精力的かつ批判的で、たとえば「『六稜』第五号を読む」では「奇警嶄新、豪放雄快なる新意見」のないを嘆き、教室での国語漢文英語の授業が「単に字句の解釈を与へらるるに止まり、ペルレターとして其心輪たる趣味乃至修辞の点に於ては殆んど得る所なし」と批判したりしている。

（『創立百周年』柏尾洋介「六稜の人びと」より）

平成7年度 会務報告

○平成7年度総会 10月29日大阪商業俱楽部にて 出席者221名

1. 福井講師会長 (59期) 挨拶 会務報告
2. 卓話「歴史と現代」大阪大学教授 加地 伸行 (67期)
3. 慶祝会

○常任理事会 (平成7年12月2日)

1. 総会報告
2. 國際文部について 1000万円の基金に加えて個人、期よりの寄付 145万円を上積む。
3. 同窓会館、資料館の建設について多角的な討論のなかで全体像を検索

○常任理事会 (平成8年2月3日)

1. 同窓会館、資料館の建設について建設準備委員会の発足、メンバーの決定
2. 事務局の強化、設備の充実

○常任理事会 (平成8年5月11日)

1. 平成7年度会計報告、8年度予算審議

○理事会 (平成8年6月29日)

1. 会計報告、予算決定
2. 校舎改築、同窓会館、資料館建設についての現況報告と方針
3. 年会費は今年度より新卒者を含む全会員より徴収することに決定
4. 総会開催日 10月27日 (日) 決定、運営は77期があたる。来年度は78期と順次りする。
5. 事務局よりお知らせ
製版印刷機の購入によりサービス能率がより充実、コピー、印刷、タックシール、名簿一覧等の一層の利用をよりかけた。

以上

会 計 報 告

平成7年度 六稟同窓会 一般会計決算報告

科 目	平成7年度予算	平成7年度決算	備 考
収入の部	円	円	
1 前年度繰越金	1,403,034	1,403,034	
2 入会金収入	480,000	467,000	
3 年会費収入	10,000,000	13,620,940	約4540×3000円
4 雇用会費収入	1,000,000	755,000	
5 寄付金収入	0	40,000	
6 利息収入	5,000	4,410	
7 記念誌等売上収入	200,000	567,364	名簿会計(882,475円)
8 基金会計からの借り入れ	1,000,000	0	120周年会計(933,776円)
9 端会計からの借り入れ	1,433,776	41,816,251	閉鎖に伴う移管
収入合計	15,521,810	18,673,999	
支出の部			
(1) 運営費	8,800,000	7,143,143	
1 人件費	2,400,000	2,400,000	
2 総務	1,500,000	748,500	
3 給食・交通費	400,000	346,000	
4 通信費	300,000	236,185	
5 印刷・事務用品費	1,000,000	672,796	
6 会賛費	400,000	131,900	
7 総会費	2,000,000	1,591,974	
8 施設費	500,000	677,839	
9 雑費	300,000	310,199	
10 発送費	0	27,750	
(2) 会費差引費	5,190,000	4,620,954	
1 税金費	90,000	90,000	
2 印刷費	2,600,000	2,391,579	
3 発送費	2,500,000	2,139,275	
(3) 全国大会出場報奨費	200,000	250,000	
(4) 基金会計への返済金	0	4,271,925	
(5) 予備費	1,331,810	0	
支出合計	15,521,810	16,286,022	
次年度繰越金	0	2,387,977	

以上の通り 平成7年度一般会計報告を致します。

平成8年5月1日 六稟同窓会会長 福井 雄輔

本会計の正確であることを認めます。

平成8年5月1日 六稟同窓会監事 球井 肇三
六稟同窓会監事 桥田 圭見

平成7年度 六稟同窓会名簿特別会計決算

科 目	平成7年度予算	平成7年度決算	備 考
収入の部	円	円	
1 前年度繰越金	1,166,332	1,166,332	
2 名簿売上収入	1,200,000	705,000	
3 タクシードライバー売上収入	50,000	0	一般会計の記述等 売上収入に含めた
4 利息収入	20,000	32,143	
収入合計	2,336,332	1,903,475	
支出の部			
1 発送費	100,000	0	一般会計で支出
2 名簿管理運営費	300,000	0	
3 編費	20,000	0	一般会計で支出
4 予備費	305,332	0	
5 基金会計への返済金	1,021,000	1,021,000	
6 一般会計への繰入金	500,000	882,475	
支出合計	2,336,332	1,903,475	
次年度繰越金	0	0	

※ 名簿部390冊

以上のとおり 平成7年度六稟同窓会名簿特別会計報告を致します。

平成8年5月1日 六稟同窓会会長 福井 雄輔

本会計の正確であることを認めます。

平成8年5月1日 六稟同窓会監事 球井 肇三

六稟同窓会監事 桥田 圭見

なお、本会計は平成7年度をもって一般会計に統合し、名簿発行年に必要に応じて名簿特別会計を別途立てるものとする。

平成7年度 六稟同窓会基金会計

科 目	決 算	第 二
収入の部	円	
1 前年度繰越金	92,405,427	大和金銀振替・郵便定期貯金 農林中金定期・住友スバーチ定期
2 利息収入	908,413	
3 名簿会計より返済	1,021,000	
4 一般会計より返済	4,271,925	
収入合計	98,605,765	
支出の部		
国際交通運賃費用	350,000	
支出合計	350,000	
次年度繰越金	98,256,765	大和金銀振替・郵便定期貯金 農林中金定期・住友スバーチ定期

以上の通り平成7年度六稟同窓会基金会計報告を致します。

平成8年5月1日 六稟同窓会会長 福井 雄輔

本会計の正確であることを認めます。

平成8年5月1日 六稟同窓会監事 球井 肇三

六稟同窓会監事 桥田 圭見

会員 News

★39期の川瀬勇さんといえば、120周年の第九合唱団の最高齢者としてご記憶の方もおられるだろう。川瀬さんは日本ニュージーランド協会（関西）発足以来、25年間会長を務める。同協会の会員はかつて赴任したサラリーマンや留学経験者など95世帯。日本とニュージーランドの親善のために活発な活動をしている。「協会にどうぞご参加を」と川瀬さんは呼びかけている。

★45期では『悪意たちのボブア便り』を発行した。同期の森繁久彌氏が題字を呈した100頁のこの冊子は悪意記に徹するということで、マジメな原稿は掲載を断ったという、いまだにやんちゃぶりを示す45期らしいもの。今だから明かせるイタズラや、伝説化した悪さが満載。

「繁さんを囲む同期の会」に合わせて作られたが、残部はないとか。事務局には1部いただいている。

★70期の松本徹三さんは久慈義の筆名で『日本の会社を生きる君たちへ—海外で働く父からの20通の手紙』（ダイヤモンド社）を書いた。香港で事業を始めた父に、日本にいる3人の子供たちが会社での悩みなどを相談する。父は手紙で、日本の会社の問題点や社会人としての生き方を指摘して子供たちを勇気づけるという内容。商社マンとして海外勤務も長かった著者の経験や思いをこめた書。昨年12月、『日経ビジネス』誌上で紹介された。

★79期の藤原良雄さんは硬派の出版で知られる藤原書店社長として活躍している。同社出版の『地中海』（F・プローデル著）は昨年第32回日本翻訳出版文化賞（日本翻訳家協会主催）を授賞、同書の翻訳者が翻訳文化賞を授賞し、この賞では初めてのダブル授賞となった。藤原さんは、「野間宏の会」の事務局長を務めるなどの活動

もしている。藤原さんの最近の仕事について朝日新聞の記事（7月21日読書欄）を転載する。

★71期の伴襄さんが建設省事務次官に就任された。25日、東京にて71期を中心にお祝いのパーティーが開かれた。

★本校化学科教諭 矢作哲朗先生は写真部顧問として写真好きな生徒たちのご指導に力を注いで下さっているが、1995年7月山梨県早川町主催「第7回白旗史朗賞日本山岳写真コンテスト」に入賞された。

入賞作について語っていただいた。

「大宇陀の山なみの美しさに魅せられて通うこと十数回。1994年11月下旬ついにこの朝もやに出会えました。白旗史朗賞入賞は、私の写真の大きな目標の一つで幸運にも実現しました。今後も大和路と山岳写真、それに本館校舎の写真を撮り続けたいと思います。」



入選「阿駒野」 奈良県大宇陀町から 高見山系

野間宏の会

野間宏さん（45期）の業績を讃え、これを広くかつ永く伝えるため、交流を図り事業を行うのを目的とし、野間さんを敬愛し野間文学を知ろうとする人々を会員として発足。毎年1月に集会を開き、年1回会報を発行する。現在3号まで出ている。

会費は年額3,000円。事務局は〒162 東京都新宿区早稲田鶴巣町518 藤原書店内
電話：03-5272-0301
振替：00100-5-611146

舞台裏 男女関係を通して日本史再考

舞台裏 男女関係を通して日本史再考

著者：吉澤義之
出版社：筑摩書房
定価：1,600円
発行年：1995年
ISBN：4-480-03222-2

本書は、著者がこれまでの歴史学の研究を通じて得た知識をもとに、日本史の「女性史」を解説した。著者は、女性の立場から歴史を観察する視点をもつて、これまでの歴史学の研究を批判的に評議する。また、女性の立場から歴史を観察する視点をもつて、これまでの歴史学の研究を批判的に評議する。また、女性の立場から歴史を観察する視点をもつて、これまでの歴史学の研究を批判的に評議する。

Party Reports (1995.8~1996.7) (同窓生の各種集いの報告をこの欄にお寄せください。)

東京六種会39回総会

東京六種会第39回総会が6月6日(木)午後6時より丸の内の日本工業俱楽部で開催されました。当日の参加者は例年より少し少ない156名。岩木俊史(63期)の総合司会で幕を開け、東京六種会河崎晃夫会長の挨拶に続き六種同窓会名誉会長山崎浩和校長先生より母校の近況報告がありました。校舎の建て替え計画も実現に向けて進行中とのことでした。120周年のビデオの上映に引き続いて、77期山本まゆみさん(エコロジーヘルスラボ代表取締役)より講演がありました。女性だけで会社を設立したいきさつや事業内容、会社での女性の活かし方等の内容でした。7時からのパーティでは年代を超えた交流の輪が広がりました。また、恒例の抽選会が行われ、一昨年から引き続いて佐伯祐三をはじめとする額面復製画や今年の目玉であるシンガポール往復航空券、岡村隆久画伯の絵等々の景品が全員に当たり好評を博しました。賞品提供者にはここで改めて感謝いたします。校歌齊唱で会は最高潮の内に幕を閉じました。最後にご協力いただいた77期生、特に女性陣に感謝いたします。

(77期 前川清行記)

大阪城梅林で恒例の梅見の会

大阪の梅の名所として有名になった大阪城公園の梅林は、北野創立100周年を記念して六種同窓会が寄付したものが母体となっている。その後、梅樹成長し、また種類も本数も増え、毎年多くの市民に楽しめている。

同窓会では毎年有志で梅見の会を催している。2月最終土曜日午前11時に、環状線大阪城公園駅下車すぐのレストハウス前に集合。梅林を散策したあと、懇親の集いを持つ。今年も2月24日に30名近くが参加し、梅の花香を楽しんだ。公園の中央付近にある六種同窓会の石碑前で、高齢の会員十数名が水島先生と梅原先生を囲んで校歌齊唱、記念写真。多くの市民の注目を集めていた。

毎年の開催に尽力されていたバカリキこと岡田喜雄さん(40期)の姿がもう見られないのは寂しいが、今年も盛会であったのはなによりであった。これからは、若い世代の参加を期待したい。

繁さんを囲む同期の会—44・45期合同「千秋楽」同期会

森繁久弥さんを囲んで、44期と45期合同同期会が5月20日開かれた。下は当日の模様を伝える読売新聞記事である。

旧制大阪府立北野中(現北野高、大阪市淀川区)OBで俳優の森繁久弥さん(83)が、「大阪まで行くこともむつかしくなった」と在籍した44、45期の合同同窓会の開催を呼びかけ、20日、「繁さんを囲む北野同期の会」が大阪市内のホテルで開かれた。

森繁さんは1926年、同中44期生として入学し、1年留年して45期となった。45期同窓会が高齢化により「今回で最後」と申し合わせたのに合わせ、森繁さんが44期との

共催を提案した。

森繁さんは開会の1時間前に会場入りし、「涙が出るほどうれしい」と4年ぶりの再会を喜んだ。「両期生がそろったのは私が落第したおかげ」と恩師の水島喜平さん(93)を笑わせた。

約3時間の語らいの時間が過ぎると、約40人の参加者らは「もう千秋楽やで」と名残惜しそう。握手を求められた森繁さんは「見送られるまでは、あと1年くらいあるな」と軽妙な「森繁節」を披露していた。



楽しそうに思い出を語る森繁さん(中央)=大阪市内のホテルで

六種伍仁会(昭和14年卒)

平成8年度六種伍仁会総会ならびに懇親会を5月25日(土)に帝人ビル17階にて開催した。恩師水島先生を含め予定者39名が定刻には揃う。開会に先立ち会場入り口で寄せ書きに署名をさせる。小林(敏)当番幹事の司会で開会。昨年来物故された4名を加えて101名の物故者に黙祷を捧げて冥福を祈った。続いて、会務報告、会計報告、理事会報告、東京伍仁会報告、ゴルフ部報告があった。水島先生には「伍仁会を励ます」お言葉を頂き、次に我々の敬愛する駒田博士の卓話「医療雑誌」を掲載。津山カメラマンによる記念撮影の後、福田君の司会に移り、上原君の乾杯の音頭で懇親会の幕を開けた。よく飲みよく食べよく喋り、時の経つのも忘れる春宵の一時であった。惜しむらくは美人不在、佳花なきをいかにせんか。定刻を迎え、千頭常任幹事の指揮で校歌「六種の星」を合唱、提井本部理事の発声で万歳三唱。再会を期して解散した。

(52期 西海記)

大阪東京合同互志会(昭和16年卒)

互志会は54期生の同窓会で、この十数年来、毎年大阪東京でそれぞれ相寄り友情を温めると共に、情報を交流し、連帯を保っていた。この気運の赴くところ、平成3年に第1回合同互志会が浜松市諏訪山寺温泉旅行となつて実った。今回第2回は、平成8年5月27・28日に黒四ダム見学を含む壮大豪華な旅を実現した。概要は次の通り。

(1) 参加者 大阪方11名 東京方15名

(2) 27日松本駅に集合、二組に分かれ、観光組は轟高周辺のわさび園、美術館、蟻の鳴る丘などを見学。ゴルフ組は日向山ゴルフコースで、北アルプスに向かってショ

トを放つ壮快なプレイを楽しんだが、途中雷鳴で残念ながら中止となった。

(3)懇親会 くろよんロイヤルホテルで開催。飲食、歓談スピーチ、そして校歌齊唱。名残尽きず、二次会へ。

(4)28日は黒四ダム、黒部平などを経て富山へ。快晴に恵まれ立山連峰の眺望を楽しんだ。雄大な景観に酔い、大名気分の旅を堪能し、喜びと感慨を込めつつ再会を期して西東に分かれた。

この度の行事は我々紅葉の子弟日に通いはじめて60周年にふさわしい壯舉であった。取り仕切っていただいた飯田君に深謝。
(東京互志会 斎藤整督記)

六種 66期同窓会（昭和29年卒）

平成8年8月11日（日）、66期生の「健やかな60歳を喜び合う集い」を大阪アメニティーパーク（OAP）タワー38F魯迅（ルクシ）で開催した。「全員が60歳を迎えたら、お互いの健康を喜び合い、残る4分の1の人生をいかに有意義に過ごすかを話し合おう」という長年の合い言葉を77名で実現した。60歳を越えても変わらず活躍するもの、仕事と共に生きがいを育て社会に貢献するもの、病を克服し家族と共に生活をエンジョイするもの、環境は様々だが長寿時代を一生現役で過ごしたいと励まし合った。早々と逝去した友や、当日やむなく出席できなかつた友にも思いを馳せ、2時間半は瞬く間、盛会のうちに終了した。その間、新校舎に合わせて建設される同窓会館（兼資料館）についての説明と共に寄付も協力しあうことを確認したのは言うまでもない。次回は2年後に開催する予定。
(丸野豊子記)



69 COUNTRY CLUB

昨年秋に69期を中心としたインターネット研究会が発足して、現在までに6回開催しました。名前は立派でも最初は「パソコンなんて初めて」という人が大部分。それでも回を重ねるうちにメンバーの進歩はめざましく、今ではインターネットを自在に駆使する人も何人かできました。まず手始めにパソコン通信の俱楽部を作ろうとスタートしたのがSIXTY-NINE COUNTRY CLUBです。NIFTY-Serve上のホームページとして始めました。最初は恐る恐るの通信で数字があったり途中で切れたり…。今では毎日メンバーの何人かが談論風発、俱楽部ライフをエ

ンジョイしています。話題はパソコンの技術的な質問や就職の世話、ゴルフの相手探し等。要するに電子戸端会議ですが、ちょっと気取って俱楽部の談話室でグラス片手に、の気分。今、俱楽部の最大の関心はやはりインターネット。近いうちにホームページ掲載を目指しています。69CCから未来に向けて創造的なメッセージの発信を…。とはいまだままで素人集団。それがこの俱楽部の魅力でもあります。69CCに関心のある方は

69会インターネット研究会事務局(tel06-203-7521 fax06-203-7522 E-Mail:BZE07136@niftyserve.or.jp 菅正徳)までお問い合わせ下さい。(69CC HOUSE MASTER 中田洋)

六種 77期同窓会（昭和40年卒）

2月17日（土）18時から「与太呂」（堂島）で約40名出席のもと開催された。今年は、いつもの年より出席者が少くなかったようである。8時半過ぎにフェスティバルホール地下の【GEO】に移動し、二次会からの出席者と合流。今回は、2年生の1学期まで北野にいた松田昌さんも飛び入り参加してくれた。77期は例年2月第3週に上記場所で同期会を開催しています。

連絡先 岡村隆久 (0726-34-6798)

東京六種 77期同窓会

1995年10月28日（土）「ソレイユ」（高田馬場）で、大阪からの2名の女性（澤山・藤井さん）を含め20名出席のもと開催された。今年はじっくり腰を落ちつけていうことで、一次会と二次会を兼ねて同じ場所で4時間過ごしました。例年10月に東京の同期会を開催しています。

連絡先 前川清行 (0425-46-5875)

六種 78期同期会（昭和41年卒）

78期同期会では、今年卒業30周年を迎えるにあたり、数々の記念イベントや事業を計画し、実行してきました。4月21日には「笹部桜親睦会」を笹部翁ゆかりの武田尾で開催。笹部桜はみられなかつたものの、山歩きと温泉で楽しい一日を過ごしました（参加28名）。5月5日には「第一回78期ゴルフ大会」を東条ゴルフ俱楽部にて行ない、22名が腕を競いました。来年も同日に開催し、今後、期別内抗ゴルフの出場者はこの会で選抜することになりました。6月1日には江坂テニスセンターで「テニスを楽しむ会」を開催し、会員のお父さんや奥さん、高校生の娘・息子も交え、和やかな雰囲気の中でテニスを楽しみました（参加15名）。8月3日には「星を観る会」、そして11月3日には「卒業30周年記念総会」を大々的に開催します。また、記念誌「思い出すこと今のこと」を作成し全員に送るほか、記念CD-ROM版写真集「78期北野時代」（在校中の写真など約300枚収録）を制作し、希望者に頒布します。なお、以上についての詳細は78期同期会のホームページで紹介しています。

GOLF

ゴルフ天王寺

昨秋・今春連勝、通算7勝1敗1分けに

北野と天王寺のOBがゴルフの腕を競う六稜・桃陰対抗ゴルフも回を重ね、平成7年11月16日(木)に第8回を迎えた。今回は西宮高原ゴルフ倶楽部にて開催。六稜43名(内女子9名)と桃陰21名(内女子2名)が参加。男子上位19名、女子上位2名の総合計で争い、男女共に六稜が圧勝した。六稜チーム上位選手とグロスは次の通り。

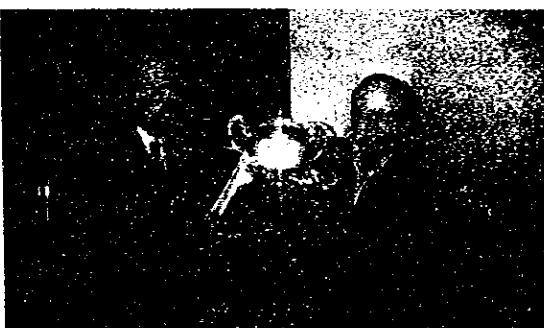
男子①神宅寿昭(67期)	79	⑥中西 藤和(66期)	86
②松田 寛(67期)	83	⑦尾崎 騒(67期)	86
③小林 清(69期)	83	⑧阿山 輝彦(68期)	86
④塚田雄一郎(71期)	83	⑨中沢 正和(74期)	87
⑤邑上治兵衛(67期)	84	⑩佐藤 功(62期)	89
女子①森本 謹子(68期)	89	④久保田 静(73期)	104
②明瀬津多子(66期)	99	⑤坪井美和子(70期)	107
③島崎 文代(76期)	103		

第9回は平成8年4月16日(火)センチュリー吉川にて開催され、六稜36名(内女子7名)桃陰33名(内女子2名)で戦われた。戦前の予想を覆し、六稜の男子が大いに健闘し、常勝の女子と共に完勝。これで対戦成績は7勝1敗1分けとなった。次回第10回は今秋11月に西宮高原で開催される予定である。

六稜チームの上位選手とグロスは次の通り。

男子①神宅 寿昭(67期)	81	⑥野村 隆夫(68期)	90
②林 徹(65期)	84	⑦朝倉 裕志(80期)	90
③上条 孝二(68期)	84	⑧林田 隆(78期)	92
④阿山 輝彦(68期)	88	⑨永江 淳(73期)	93
⑤鈴木良太郎(67期)	90	⑩神原 貞夫(69期)	94
女子①森本 謹子(68期)	96	④鈴木富美子(67期)	118
②伊藤 民子(70期)	113	⑤横山 廉子(88期)	119
③久保田 静(73期)	113		

(69期 菅正徳記)



第9回夏の定期戦で優勝トロフィーを受け取る

六稜キャプテン下平嘉昭氏(61期)

クラブ対抗ゴルフ

第6回六稜クラブ対抗ゴルフ大会は平成7年9月7日に西宮高原ゴルフ倶楽部で開催された。各クラブOBでチームを結成(最多10名)し、上位3名のグロスで競い、3名未満のクラブは団体戦に限りオブザーバー参加となる。今回の参加クラブは野球部(8名)陸上部(7名)応援団(8名)ハンドボール(6名)テニス(5名)柔道(4名)水泳(4名)、オブザーバー参加は体操(2名)山岳(2名)ラグビー(1名)で、参加者は計47名。成績は次の通り。

1位 野球部	5位 陸上部
2位 ハンドボール部	6位 水泳部
3位 応援団	7位 柔道部
4位 テニス部	

個人成績

1位 藤本紀男(72期・体操)	81
2位 磯村昭夫(72期・野球)	84
3位 神宅寿昭(67期・ハンド)	85
4位 尾崎 騒(67期・ハンド)	86
5位 長尾秀樹(73期・野球)	86
6位 森下雅彦(71期・テニス)	86

第7回期別対抗ゴルフ大会

96年度の期別対抗ゴルフは6月22日(土)西宮高原ゴルフ倶楽部で開催され、63期から78期までの14期の間で覇が競われた。オープン参加の62期を含めて、参加者は132名という大盛会となった。各期の1・2・3・5・7位の合計で順位を決定し、結果は次の通り。71期が3年連続優勝を手にした。

1位 71期	436	8位 69期	488
2位 67期	454	9位 66期	493
3位 76期	458	10位 74期	495
4位 68期	465	11位 77期	502
5位 65期	466	12位 70期	511
6位 78期	475	13位 75期	512
7位 72期	477	14位 63期	518

個人成績	1位 71期	今井 克一	75
	2位 67期	前田 隆弘	78
	3位 76期	谷口 光	79
	4位 69期	永江 温	83
	5位 78期	林田 隆	84

個人女子	1位 68期	森本 謹子	92
	2位 66期	明瀬津多子	102
	3位 68期	酒井 純恵	108
	4位 69期	岩本 洋子	108

(事務局 新原知廣記)

伝言板

同志会の連絡、会員へのお知らせなどにこのコーナーをご利用ください。掲載申込みは事務局まで、紙面の都合上、文面を改変することがあります。

(旨利を目的とするものなど、本誌の趣旨に添わない場合は断りいたします。)

★「北野中学校跡記念碑」が中津の済生会病院旧館前庭にあります。ここに旧制北野中学校があったことを記念して建てられたものです。「北野」の名称はこの地に由来します。毎年4月20日午前11時に、この碑の前で昔日をしのぶ集いが行なわれています。平成8年は、参加者が少なく、毎年お越しくださる水島先生も寂しそうでした。来年は多数のご参加を期待しています。お問合せは事務局まで。

★同期で、あるいは同好のグループで、ホームページを作っている、または作る準備をしているという話をしばしば聞くようになりました。前号では1、2件ご紹介しましたが、この1年でかなり数は増えることでしょう。さしつかえのない範囲で、事務局に情報をお寄せください。開設したものについて、この欄でご紹介していきます。

★六稟伍仁会(52期)では、大阪は偶数月の第3金曜日に阪神地下の「アサヒスーパードライ」にて、東京は3ヶ月ごとの第1金曜日に築地の「スエヒロ」にて、有志の集いをしています。

★81期 入学30周年記念同期会

10月12日(土) 北野高校 2:00

なつかしい先生方のミニ授業や、ティールームでの記念パーティーを計画しています。ぜひ、ご参加を。

問い合わせは 北野高校 錦田まで

★87期(昭和50卒)入学25周年記念同志会を開催します。ご参加をお待ちしています。会場手配の都合上、10月25日までに下記連絡先に出欠をお知らせください。

日 時: 11月9日(土) 午後5時~8時(受付4時半)

場 所: 北野高校食堂(Tea Room)

会 費: 5,000円

連絡先: 釜本憲一 0727-29-4488

高橋正直 06-928-7509

関 雅子(河本) 06-929-0987

★E・フロムの翻訳やイエイツを中心としたアイルランド文学の研究で知られた佐野哲夫さん(61期 北野在職は1953~57年)は1994年3月京都大学を定年退官され現在は神戸親和女子大学で教鞭を執っておられますが、

京大退官記念としてアイルランド研究仲間の方々と共同執筆された『豊饒の風土—現代アイルランド文学の群像』が山口書店から出版されています。(5000円)

★旧職 深江浩先生(京都薬科大学名誉教授 北野在職は1967~73年)は大学では文学・語学を講じてこられましたが、近く『漱石にとっての二十世紀』(翰林書房 2400円)を出されます。近代文学の研究を続けてこられて、文学勉強会を主宰され同人誌『あしかび』は50号になりました。これまでの著作として『漱石長編小説の世界』(桜楓社 1981)『漱石と日本の近代』(同 1983)『教養としての文学』(翰林書房 1993)があります。

★中国文学研究家で大阪市立大学名誉教授の片山智行さん(64期)が柏木智光の筆名で小説『上海カタストロフ』(講談社)を出版されました。

★パレーボール部では8月10日に創部50周年式典を行い、『パレーボール部50年史』を発行した。記念誌御希望の方は芝田謙三さんまで(06-872-3088)。

『田上泰昭著作集』年内に刊行

田上泰昭先生が亡くなられて1年過ぎた。優れた中国学研究者として、永遠の文学青年として、北野を愛する教師として、先生は多くの論文や随筆を残された。それらをまとめて刊行しようと、「田上泰昭先生著作集刊行会」(代表=山本次郎・片山智行・加地伸行)が発足した。現在、賛同者を募っている(下記要項参照)。

「田上泰昭著作集」は随筆の部と研究の部からなる。随筆のほとんどは北野の各種校内誌に発表されたものであるが、若き日の先生が別名で島原の新聞に発表された短編小説も収録されている。研究の部には、先生の中国研究の成果である論文を収録。中には未発表の原稿をそのまま写真印刷したものもあり、その筆跡や推敲の跡から、在りし日の先生を偲ぶことができる。なお、この書は市販しない。

<田上泰昭先生著作集刊行会募金要項>

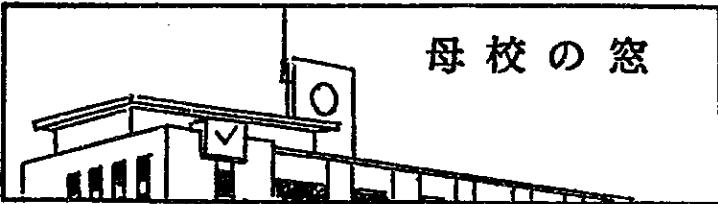
一、一口5,000円とし郵便振替にて次の口座に送金する。

郵便振替口座番号 00990-0-72249

口座名 田上泰昭先生著作集刊行会

一、一口以上の出資者全員に「田上泰昭著作集」1冊を進呈する。B5版330頁(予定)上製本。今年12月刊行。なお発刊後は1冊6,000円(送料別)で頒布する。

一、この会の事務局は六稟同志会事務局に置く。



母校の窓

職員移動

御退職

小出 猛先生（英語S 63～）が、3月、でご退職されました。本校 66期の御卒業で図書館主任をされる一方で、同窓会担当としてもお力添えをいただきました。

八幡 直美先生（養護助教論 H6～）は、ご退職され、高槻市立柴谷中学にお勤めになりました。

御堂岡 春先生・薬師寺 春男先生・柏尾洋介先生は、本校御退職後も特別講師や期限付き講師としてお勤め下さいましたが、今春その任を終えられました。

ご榮転

肥塚 敏彰先生(H3～)が、寝屋川養護学校長としてご榮転になりました。

本校 72期の御卒業で、120周年記念行事を始め、同窓会には多大なご尽力をいただきました。

城 治明事務長(H6～)が、桜塚高校事務部長としてご榮転になりました。

御転任

松浦 育代先生（保健体育 S40～）

は 高槻北高校へ

馬場 将夫先生（英語 S57～）

は 茨木東高校へ

唐津 正之先生（物理 S63～）

は 西淀川高校へ

奥野 利明主査（事務 H4～）

は 高津高校へ

西山 秀代主査（事務 H1～）

は 府教委財務課へ

それぞれご転任になりました。

御着任

次の先生方をお迎え致しました。

西川 芳夫教頭 鳥高校から

福井 克次事務部長 府教委財務課長から

中谷 茂樹先生 数学 城東工業高校から

乾 由美先生 保育 高槻養護学校から

中野 玄先生 英語 津田高校から

加藤 悅子先生 英語 芥川高校から

横野 錠黄先生 養護助教論

植野 秀伸主査 事務 小路高校から

御不幸

小池義人先生(社会 S25～S28)が、2月に真田重雄先生(数学 S23～S53)が、3月に

小池善三郎主査(事務 S53～S59)が、3月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。

全国大会等出場激励金

平成7年度 (H7.8以降)

近畿選手権 陸上部個人 女子走幅跳

(3年 羽賀 梓) 10,000 円

近畿選手権 陸上部個人 男子 800m

(3年 佐々尾秀樹) 10,000 円

近畿高等学校なぎなた選手権大会

剣道部個人

(1年 宮島良子) 10,000 円

近畿芸術文化祭大阪府代表

オーケストラ部 30,000 円

全日本学生音楽コンクール声楽部門

高校の部全国大会

(2年 岡田早代子) 20,000 円

国民体育大会 スキー競技

(1年 松岡岳洋) 20,000 円

平成8年度

全国インターハイ 山岳部 男子団体

(前原・甲斐島・藤原・住友) 70,000 円

近畿大会 陸上部個人 男子 5,000m

(3年 斎藤大輔) 10,000 円

近畿大会 卓球女子学校対抗戦

(中島・松本・山下・向井) 30,000 円

以上の通り、同窓会より激励金をいただきました。ありがとうございました。

なお、山岳部男子は、3年連続インターハイ出場をはたしました。

平成8年度文化祭記念講演

今年の記念講演は、6月5日北区

のザ・シンフォニーホールで、大阪セ

ンチュリー交響楽団のコンサートと併せて実施した。

講師 木戸 康氏

(70期 毎日新聞社東京本社編集局長)

演題「日本人の忘れ物」

この春死去した作家司馬遼太郎の生前の発言に触ながら、土地と金に狂奔した日本の過去を嘆き未来を憂慮する言葉に、生徒諸君も静かに聞き入っていました。最後に、未来を担う生徒達への叱咤と励ましの意を込めて、やはり司馬遼太郎の「21世紀に生きる君たちへ」という文章を朗読され、約90分の講演を締めくられた。

クラブだより

【陸上競技部】

僕達陸上部は、現在高校總体に向けて日々練習に励んでいます。今年6月にあった大阪インターハイでは、3年の斎藤大輔が5000mで3位に入り、近畿大会に出場しましたが、1・2年はこれに続くことができるよう、各自努力しています。

強化記録会、總体、三校戦と試合統計で大変ですが、三校優勝や先輩方に負けない、いい記録を出すことを目標に、がんばりたいと思います。

【女子バスケットボール部】

高校總体予選

対大冠高戦 58-59×

公立高校大会

対豊島高戦 76-71○(予選リーグ)

対芥川高戦 45-40○(決勝リーグ)

対豊中高戦 37-31○

対島本高戦 67-68×(1位決定戦)

定期戦

対天王寺高戦 46-25○

新人戦~北地区予選~

対箕面高戦 52-40○

対接場高戦 54-35○

対東淀川高戦 41-37○

対成蹊高戦 38-74×(準々決勝)

~中央大会~

対大塚高戦 19-87×

I. H予選

対天王寺商業高戦 73-50○

対市立南高戦 53-36○

対島本高戦 45-62×

【男子バスケットボール部】

大阪高校総合体育大会

一回戦 対星翔 57-53 ○

二回戦 対豊島 49-50 ×

公立高校戦 予選リーグ 1位突破

決勝 対山田 39-68 ×

対茨木東 69-47 ○

対千里 51-55 ×

大阪高校バスケットボール新人大会

一回戦 対渋谷 61-43 ○

対少路 111-69 ○

対高麗 79-97 ×

全国高校総合体育大会予選

一回戦 対住吉 74-49 ○

二回戦 対北陽 73-50 ○

三回戦 対阿武野 66-55 ○

四回戦 対千里 75-72 ○

五回戦 (ブロック決勝)

対寢壁川 47-67 ×

<定期戦> 天高戦 60-72 ×

四校定期戦 対灘 69-44 ○

対神戸 78-39 ○

【器械体操部】

府立高校大会

二部 団体三位 長谷川、小瀬
浅野間

個人総合七位 長谷川

大阪高校総合体育大会

三部 個人総合三位 山分
種目別跳馬一位 山分

大阪高校春季大会

二部 種目別跳馬四位 山分

【ラグビー部】

全国大会予選

一回戦 対河南 91-0

二回戦 対春日丘 48-3

三回戦 対東豊中 84-7

準々決勝 対関西創価 3-41

定期戦

対洛北 7-41× 対神戸 7-35×

対天王寺 0-46×

新人戦

二回戦 対池島 22-5

三回戦 対枚方津田 5-23

春季大会

一回戦 対東海大仰星 0-83

【硬式野球部】

秋季大会 対渋谷高戦 3-4×

春季大会 対阿倍野高戦 13-5×

定期戦 対天王寺高戦 6-5○

対市岡高戦 2-4×

全国高校野球選手権 大阪大会

対履正社戦 4-5×

【女子ハンドボール部】

公式戦

高校新人大会 (ブロック大会)

北野 22-2 千里

北野 8-2 池田

北野 5-8 東淀川

(中央大会)

北野 7-36 実真

【男子ハンドボール部】

インターハイ予選 (ブロック大会)

北野 - 東豊中○

北野 - 桜塚 ○

北野 - 刀根山×

(中央大会)

北野 - 上宮 ×

(天高戦)

新人 20-15○

現役 10-22×

今年も中央大会を目指してがんばっています。

【女子バレー部】

大阪総合体育大会

北野 2-0 北淀

北野 1-2 薫英

北野 2-1 島本

春の高校バレー予選

北野 0-2 笹面

西田杯

北野 2-0 柴島

北野 0-2 茨木東

部別 (春)

北野 2-0 工芸

北野 2-0 門真南

北野 2-0 阪南

3部優勝 2部昇格

豊能

北野 0-2 刀根山

近畿大会予選

北野 0-2 羽曳野

【男子バレーボール部】

・高校総体 A地区第3位

・府立高大会 ベスト8

・秋季大会

北野 2-0 牧野 北野 2-0 泉陽

2部昇格

・新人大会

北野 1-2 八尾東

北野 2-1 大阪学芸

北野 2-0 大阪産大 1部昇格

・近畿大会予選

北野 0-2 四天王寺羽曳丘

【柔道部】

我々柔道部員は、明るく誰もが親しく話せる仲間で、毎日の練習のときはけじめをもってがんばっています。公式戦や他校との練習試合では、日ごろの成果を出すべく、熱闘しています。

◎インターハイ大阪府予選

対島上高戦 4-0 勝

対阿武野高戦 2-2 内容勝ち

対北陽高戦 0-4 負

◎天高戦

<点取り戦> 7-3 で北野高 勝利

<勝ち抜き戦> 松尾の3人抜きで、勝負を決めた。北野2人残しで勝利

【女子テニス部】

夏季大阪オープン (シングルス) 牧野佳世、本戦出場。秋季赤坂杯 (ダブルス) 寺川・柳沢ペア、異・西田ペア、本戦出場。サンケイジュニア (シングルス) 寺川真理、BEST 4 (ダブルス) 寺川・柳沢ペア、BEST 4。春季団体、BEST16。春季赤坂杯 (シングルス) 鶴田玲子、戸島千恵、本戦出場。校舎改築のため、来年にはコートがなくなってしまいますが、北野高校テニス部は不滅です。

【男子テニス部】

春季総体

シングル 森 ベスト64

ダブルス 森・柳田 本戦出場

大阪オーブン

ダブルス 大黒・西口 本戦出場

赤坂杯

シングル 佐竹 ベスト4

森 本戦出場

柳田 本戦出場

サンケイジュニア

シングル 柳田 本戦出場

2年生7人、1年生2人と部員は少ないですが、日々厳しくかつ充実した練習を行っています。

【合気道部】

現在合気道部は、1年生に男子5名女子3名を迎えて計17名で活動しております。

阿部師範が月に1回来て下さっています

て、今年は無事に夏合宿も行うことができました。これからも今までどおり朝練・昼練を中心に練習をしていきたいと思っています。

【剣道部】

今、剣道部では、たくさんの新入部員達もめきめきと力をつけ、2年生共々、毎日稽古に励んでいます。今までの大会結果は次の通りです。

- ・北摂大会 男子 3回戦 ×
- 女子 2回戦 ×
- ・全国高校剣道大会ブロック予選
　　団体男子 1回戦 ×
- 女子 1回戦 ×
- 個人男子 1・2回戦〇 3回戦×
- 女子 中央大会進出 2回戦×

【ソフトボール部】

大阪総体 一回戦 対阿倍野 2-8×
府立大会予選リーグ対枚方西 25-4〇
　　対枚方 11-2〇
決勝トーナメント 対八尾南 1-8×
部別大会 一回戦 対刀根山 8-11×
第一学区大会 三位
つくし杯 五位
公立研修リーグ 対扇町南 3-4 ×
対河内 3-2〇 対富田林 1-5 ×
対岸産 7-4〇
IH予選 三回戦 対吹田 2-3 ×
新旧交代、新チーム発足から数ヶ月
がたとうとしています。ぎりぎりの人数ですが、いい試合をしようと頑張っています。

【水泳部】

こんにちは、水泳部です。私達水泳部は1・2年合わせて39人で毎日厳しい練習に励んでいます。今年の中央大会では個人競技で8人、リレー種目で5組が出場し、50m自由形で決勝に残るなどなかなかの成績を収めました。3年生が引退して体力がかなり低下したけど、この後に控えている高校総体と新人戦に向けて頑張っています。

【サッカー部】

平成7年度 新人戦

- 1回戦 VS 生野 0-0 PK5-3×
 - 2回戦 VS 茨田 3-0
 - 3回戦 VS 泉陽 0-3
- 平成8年度 春季大会
- 2回戦 VS 扇町 16-0
 - 3回戦 VS 港南 6-0

4回戦 VS 初芝 2-1

5回戦 VS P L 学園 0-1

【山岳部】

山岳部は日々の練習で主に基盤体力をつけて、月一回の山行を楽しんでいます。夏にはアルプス方面に合宿を行っています。昨年のインターハイでは全国12位というすばらしい成績を残していて今年は秋季大会総合一位、春季大会一位という好成績でインターハイ出場の切符を手に入れました。OBの方々いろいろと御指導ありがとうございました。これからもよろしくお願ひします。

【バドミントン部】

第50回大阪高等学校総合体育大会

男子シングルス<二部>

中田晴彦 ベスト32

男子ダブルス<二部>

中田晴彦・茶谷憲幸 ベスト16

八木孝幸・高野智史 ベスト16

第43回大阪高等学校選手権大会

男子シングルス<二部>

中田晴彦 ベスト16

男子ダブルス<二部>

中田晴彦・茶谷憲幸 ベスト8

第50回大阪高等学校（IH予選）

バドミントン選手権大会

学校対抗の部

男子 府下ベスト8

(中田・茶谷・八木・高野・池田)

男子シングルス<二部>

中田晴彦 ベスト32

茶谷憲幸 ベスト32

平日の朝星、休日を中心練習しています。是非練習を見に来て下さい。

【卓球部】

我々六稜卓球部は、2年6人1年4人で少人数ながら「少数精銳」を目指して日々練習に励んでいます。

<試合成績>大阪卓球選手権（春）

男子団体

1回戦 対金岡 3-0

2回戦 対産大付0-3

女子団体

2回戦 対浪速女子 3-1

3回戦 対堺女子 0-3

3年女子は近畿大会出場！

【囲碁・将棋部】

第一新館化学講義室で、月曜日から

金曜日まで毎日活動しています。文化祭の時には、北野杯将棋トーナメント戦を開催していますので、是非来て下さい。

【オーケストラ部】

- ・近畿高等学校芸術文化祭にて「こうもりり」演奏
- ・扇町教会での音楽礼拝（スラブ舞曲他）

- ・大阪府高等学校芸術文化祭にて「新世界」四楽章演奏

- ・新入生歓迎演奏会にて演奏（ハンガリア舞曲5番、ファンダール、カノン他）

現在、10月の第1ブロック音楽会に向けて、モーツアルト・交響曲41番、第1楽章を練習中です。

【写真部】

6月に行われた文化祭では校舎の記録写真を展示。

部員は2年生1名。

【放送部】

- ・KBS京都主催「こちら青春放送局」に自作の放送劇「春の記憶」で参加。

- ・今年の文化祭では講堂にて放送劇「CROSS ROAD」を上演。

- ・月曜日～金曜日まで朝10分間、昼30分間の校内放送。

- ・水泳大会、体育大会、その他のクラブの大会時のアナウンス。

- ・部員6名で活動しています。

【美術部】

★全大阪高校美術工芸展に出品。油彩部門優秀賞を2作品が受賞。

★第1ブロック展に出品。

その他、文化祭では油絵やアクリル画などを展示。たくさんの方々に来て頂きました。

只今部員は10名。本館3階の美術室で活動中です。

【物理研究会】

- ・全国誌「マイコンBASICマガジン」10月号投稿、掲載される。

- ・文化祭出展「パソコンの変遷」と銘打って過去から現在までのパソコンを公開し、好評を博した。また、MIDIによる作曲、Windows、ホームページ制作等の新しいことに挑戦している。物理法則に基づく

工作もしており、充実した活動を行っておりります。

【文芸部】

平成7年度の活動では、部誌「幻」を2冊と番外編(特集)を発行。また平成8年度の文化祭では「北野歌集」を発行、宮澤賢治の特集も行いました。

部員は昨年より減りましたが、現在も明るく楽しく活動しております。

【園芸同好会】

★六稜園芸店96「一文化祭

種から育てた苗を販売

- ・クリサンセマム(ノースポール、マルチコーレ)
- ・マリーゴールド(ダンディマリエック、ゴールデンポーリ)
- ・コリウス
- ・スター
- ・スイートアリッサム

売上げをハンセン病患者のためのチャリティーに寄付しました。

★四季折々の花壇

今年は自分で種から育てた苗を植える予定です。

【クイズ研究同好会】

昨年度より正式な同好会となったクイズ研。会員は昨年大量にいた3年が去り8人と少し小規模ですが、内容は実力強化をスローガンにハードに。毎年恒例の文化祭でのクイズ六競オブーンも改良を加えさらにスケールアップして行いました。来年度の文化祭にお越しの際は是非クイズ研にどうぞ!

【生物研究部】

昨年は、こちらの手違いによりこのコーナーに生物研究部の活動を載せることができなかたことを深くお詫び申し上げます。活動を行っていないかたというわ

けではありません。ご了承ください。

現在2年生5名、1年生3名、計8名で日々熱心に活動しています。夏には美山への合宿や妙見山での灯火探集、秋には大阪府生物教育研究会生徒生物発表会参加、冬にはLUPPE 34号発刊や文化祭など他にも花粉調査、組織培養などを行っています。

【コーラス部】

- ・「北野高校コーラス部フェスティバル'95」にて演奏(95年8月)
 - ・六校交歓音楽祭に演奏(11月)
 - ・校内合唱にて演奏(11月)
 - ・第13回第一ブロック音楽会にて演奏(96年2月)
 - ・新入生歓迎演奏会にて演奏(4月)
 - ・文化祭にて演奏
- 部員数は少なくなっていましたが、より美しいハモニーを目指し、皆で頑張っています。

第12回文化活動振興賞 決定

平成7年度の文化活動振興賞は次の3個人・1団体に決定した。ここ数年、文化部のどちらかといえば継続的で堅実な活動に対する顕彰が続いている中で、個人の授賞は平成元年第5回のバイオリンの高木和弘君以来、しかも3個人・1団体という候補の多さはかつてないものであった。

選考に当たっては、候補の多さとそのレベルの高さにおいて選考委員をかなり苦しめた。当初の校内選考委員会および校外委員を交えた本選考委員会では決着を見ず、再度の委員会を開くという異例の慎重審議の結果、4候補すべての同時受賞となった。以下、受賞者の受賞理由および選考経過を記す。(なお、学年は選考時点のもの)

オーケストラ部

大阪府代表として平成7年度第16回近畿高等学校総合文化祭に出演。

ショカラ作曲 喜歌劇『こうもり』序曲を好演

岡田早代子(2年 109期)

毎日新聞社主催第49回全日本学生音楽コンクール大阪大会本選声楽部門高校の部で第1位となり、全国大会に出場。

課題曲 チェティ作曲 『私の偶像である人の周りに』

自由曲 マストニ作曲 『カヴァレリア・ルスチカーナ』

から アリア『ママも知るとおり』

全国大会出場者4名のうち、優勝は逃したものの(優勝者のみ公表)、「深々とした声質と情感に溢れた表現力量かな歌唱」によって、次席に相当するものと思われる評価を得た。

船越直子(3年 108期)

第33回全国高等学校生徒英作文コンテスト

(主催 全英連 後援 文部省・旺文社)

2・3年の部 課題(COMICS AND I)

最優秀賞・文部大臣奨励賞(全国1名)受賞

磯村由美子(3年 108期)

第34回全国高等学校生徒英作文コンテスト

2・3年の部 課題(THE PERSON I RESPECT)

最優秀賞・文部大臣奨励賞(全国1名)受賞

平成6年・7年と2年連続で本校生が全国第1位の栄誉に輝いた。単なる和文英訳的な語学力だけではなく、高校生らしい創造力や構想力、英語の文章の組立力を生かした自由な表現力をねらいとしている。本校では英語科の中田教諭が毎年夏期課題として2・3年の生徒に課し、提出された中から優秀なものを応募させているもので、審査委員会では、教科活動の延長ともいえるもので、本来の自主的・自発的な文化活動と言いくらいではないかという懸念が出され、かなりの論議が尽くされたが、教諭の示唆・指導がきっかけではあれ、本校の確かな英語教育の伝統に支えられつつ、個人の感性や創造力が結実したものとして、受賞に値すると判断された。

1994年度、2・3年の部「漫画と私」に2年生当時応募して最優秀賞に輝いた船越直子さんは、スヌーピーでよく知られたアメリカの漫画『ピーナッツ』との出会いによって英語に興味を持ち、英語で読む楽しさを自然に身につけていった様子を生き生きと表現した。1995年度3年生で「私の尊敬する人」に応募した磯村由美子さんは成長の過程で、『アンネの日記』を子供向け物語から近年発刊された完全版までの異なる版で読み、その豊度、アンネの実像をとらえ直しながら、自分自身の成長と重ねてアンネの生き方から影響を受けてきたことをしっかりと英文構成で述べている。

指導に当たってこられた中田先生のお話を次に挙げる。

「国際化社会に向けて自分の言いたいことをきちんと取り組む一つの目的です。これまでこのコンテストで上位を占めるのは、中高一貫で英語に特に時間をかけられるような私学が常連だった。それをしのいで、北野が上位を駆け取ったというのは、うちの生徒にはユニークな切り込み方がある、発想・内容で読む人の心をとらえるものがあるということだと思います。これが北野の強みでしょう。休み中に添削に応えて英語を練るのは教師も生徒も大変な面があるが、外国语でいいことを表現できたというのはいい体験になるので、やりがいのあることだと思います。」

平成8年度 第6回 文化活動助成金は2年連続で写真部に

6月9日文化祭当日、文化活動振興賞委員会が開かれ、平成8年度の助成金は、昨年に引き続き、ここ数年間まもなく取り壊される校舎の写真撮影に取り組んでいる写真部に与えられることに決定した。また、この席上、平成7年度助成金による活動報告が写真部顧問の矢作

教諭からなされ、部員たちがとり続いている校舎の写真のアルバムが披露された。写真の一部を紹介する。



文化祭に取り組んで

三年 岩佐 健史

「北野の文化祭は面白くない。」という声を耳にすることが多い。校内・校外を問わず、様々な友人から聞く。実際、高1の時は中学時代の友人もチラホラ見かけたが、高2になると彼らの姿を全く目にしなくなる。クラス毎の出し物を必死で計画し、連日、放課後に残って準備に精を出す、そんな過程とその発表の場である文化祭が僕は好きだ。でも、その結果が、「面白くない」では、あまりにやり切れない。文化祭をもっと盛り上げよう、楽しくしよう、そう思って文化祭実行委員(略して文実)に参加したのが、4月末のことだった。

北野の文化祭の中心は、各クラスの出し物と、文化部の発表である。したがって文実はその下準備と調整に奔走することとなる。言わば“裏方”である文実だが、その文実が中心になって行なっているのが、今年で3年目の「チャリティーバザー」である。今年はこれに加えて、文化祭終了後の「後夜祭」の開催を文実の活動の中心に据えた。

本校の卒業生に、バングラデシュでハンセン病と闘つてこられた、医師の畠野研太郎さんという方がおられる。この方が来校され、バングラデシュの現状について話されたのが5年前。その3年後の平成6年から、少しでもハンセン病と闘う力になろうと、チャリティーバザーが行われている。今年は3年の有志クラスにも参加を募った結果、規模も大きくなり、又、今年で見納めとなる校舎の写真や、先生の持ち物をオークションにかけさせてもらったりと思いもよらなかつた企画も出、また文実ハンセン病に関する掲示にも思いのほか多くの人が集まり、意義あるものとなりました。

文実の用意したもう一つの目玉イベントが、「後夜祭」である。まず、畠野さんの話を聞かせて頂いた。その後、クイズ大会、そして生徒のバンド演奏という次第であるが、僕達が予想した以上に多くの生徒が講堂へと詰めかけ、大いに盛り上がった。最後の「風になりたい」の合唱では、会場の全員が一つにまとまったような、そんな一体感が感じられた。大成功だった。そして楽しかった。

それにしても、文実として文化祭に関わって思ったことがある。それは、クラスであれ、クラブ、あるいはバンド等であれ、参加している生徒が皆、一生懸命であるということである。一つの事に打ち込むのは楽しい。クラスには一体感が、そして個々の心の中には充実感が得られる。不満が残ったなら、自分の胸に問い合わせてみよう、自分は本当に全力で頑張ったのか? 僕は、誰もが全力を尽くし、そして必死で参加すればそれに見合つた“何か”が得られる、そういうのが、北野の良さであり、伝統なんだ、ふとそう思った。

「今年もやってきました」
米・ケントウッド高生ら交換留学で来日

大阪府立北野高等学校（山崎浩和校長）では7月1日から12日まで、アメリカ・ワシントン州のケントウッド高校から教員1人と生徒2人が来訪、およそ2週間に亘って生徒と一緒に授業を受けたり、京都見学をするなど、日本の高校生活をエンジョイした。北野高校とケントウッド高校との交流は6年前、1990年3月に始まった。同校柔原教諭（体育科）が全国高体連の派遣で、ケントウッド校を訪問し柔道を指導したことがきっかけとなり、今度は同年6月から7月にかけてケントウッド校から教員1人が同校を来訪。また、翌1991年7月には、ジョン・ウイルソン校長夫妻を招待。

以来、毎年春には北野の教諭・生徒がケントウッド校を訪ね、夏にはケントウッド校の教諭・生徒が北野高校を訪れる形で交流を続けている。また、創立 120 周年記念事業の一環として「国際交流基金」を創設、昨年 2 月

に1,000万円の基金が設けられたほか、同校同窓会「六稜会」からの援助など、学校の組織をあげて国際交流に取り組んでいる。

今回留学してきたニック君とケーシャさんは、北野の生徒の家庭にホームステイし、ホストファミリーのクラスで授業を受けたり、家庭科の実習（写真）で日本の家庭料理づくりに挑戦したり、京都・神戸を散策したり。これまで互いに一生懸命勉強してきた英語と日本語が活かせる機会とあって、どの場面でも大いに会話が弾んだ。

山崎校長は「国際化への対応」ということがいわれていますが、北野では勉強はもちろん、80%近くの生徒が部活動に取り組むなど、いろいろなことを体験することを大切にしています。その中に国際化への対応ということも位置づけ、こうして実際に外国の高校生と親しく交流することで英語の学習・異文化理解が着実に深まっています。今後は、規模や内容をさらに検討し、芸術作品の交流や文通なども含め一層交流を深めていきたい」と語っていた。（「教育タイムス」1996年7月24日より）

大 学 合 格 者 一 覧 表 (8. 5. 2現在)

■事務局から

○平成10年に六稜同窓会名簿（創立125周年）を発行します。名簿の充実をはかるため、事務局でも電話による確認などに努めていますが、会員の皆様にもぜひ御協力いただきたくお願ひいたします。転居や住所の表示変更の場合はただちにご連絡ください。また住所不明者のうち、ご存知の方がおられましたら、お知らせください。身の回りに北野出身の方がおられたら、六稜会報が届いているかおたずねください。

○各期・各地・クラブなどで同窓会を開催する場合、事務局にご相談ください。最新名簿データの提供、宛て名タックシールの打ち出し、案内文の高速プリント、会場の紹介など、いろいろお役に立ちます。

○同窓会ならびに会員に関するニュース、お問合せなど、なんでも事務局にお寄せください。

(事務局長 新原知廣)

六稜同窓会事務局

〒532 大阪市淀川区新北野2-5-13
大阪府立北野高等学校内
TEL 06-306-0374
FAX 06-306-1335

<表紙について 一筆部桜>

今回は筆部桜である。この写真は岡本南公園のもの。写真もスケッチも63期の戸澤正雄さんの提供である。今年の花は少し元気がなかったという。気掛かりである。

筆部桜については、すでに本誌で何回か取り上げているが、桜男、桜博士として知られた筆部新太郎氏（17期）の育てた桜の園芸種。二重の花弁の内側が立っているのが特徴。北野の正門近くにも1本ある。校舎改築の際、これを移植するのを含めて、同窓会館周辺に筆部桜の林を作ることを計画している。

■編集後記

◆校舎改築もいよいよ来年から着工予定。同窓会としては同窓会館建設がこれから大きな課題。まだ具体的な建築プラン、募金プランが立てられる段階ではないが、本誌では当分これをメインテーマとする予定。まずは消えゆくものの想いを。◆本誌のバックナンバーを通して見ても、女の先生の寄稿は見当たらない。そこでお願いしたのが今年転出された松浦先生。編集者には旧姓の山田先生の方が馴染み深い。◆読んでもらえる会報を目指し、できるだけ多くの期、多くの人の登場を期待している。身近な会員に関する話題があれば、いつでも事務局まで。（K）

守り続けよう120年のきずな

六稜同窓会は会員の年会費で運営されています

年会費（3000円）の納入をお願いします

（年会費の納入は同封振込用紙をご利用ください）

北野高等学校創立120周年記念誌

北野百二十年

B5版 288頁 1993年10月30日発行

価格 2000円

お申し込みは六稜同窓会事務所（06-306-0374）まで